

**令和 8 (2026)年度**

**シラバス**

**- 大学院 -**

科目No.	MCS01-1R	授業形態	演習	開講年次	1年次
授業科目名	英語文献講読	担当教員 E-Mail	松尾 加代		
基本項目	科目区分		単位数		履修期間
	共通科目		必修	2単位	前期(30h)
授業概要	<p>専門領域の最新の学術情報を身につけるためには、英語論文を検索して必要な文献を探し出し、それらを正確かつ精緻に読み解く力が必要とされる。本科目では、Nature、Science、Cell、Pro NASなどの雑誌から、認知とリハビリテーションに関する自分に必要な論文を検索し、精読して理解する能力を身につけることを目指す。PubMedやPsycInfoなどのデータベースを使って検索し精読した論文の発表を繰り返すことを通して、論文読解の力を養う。</p>				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 論文検索のデータベースが活用できる</li> <li>2. 英語論文の検索が効率的にできる</li> <li>3. 英語論文の構成を理解し、必要な情報を素早く入手できる</li> <li>4. 認知リハビリテーション領域の論文で使用される英語表現や専門用語が理解できる</li> <li>5. 英語論文の内容を理解できる</li> <li>6. 英語論文の内容についてディスカッションができる</li> </ol>				
授業回数	テーマ	内容		担当教員	
1	英語論文を読む目的	英語論文を読む目的を知り、リサーチクエストを考える。		松尾 加代	
2	論文の構成(1)	英語論文の構成、および本文のパラグラフの関係性について学ぶ。		松尾 加代	
3	論文の構成(2)	英語論文の構成、および本文のパラグラフの関係性について学ぶ。		松尾 加代	
4	論文の構成(3)	英語論文の構成、および本文のパラグラフの関係性について学ぶ。		松尾 加代	
5	論文の構成(4)	英語論文の構成、および本文のパラグラフの関係性について学ぶ。		松尾 加代	
6	論文の検索方法	データベースを使った論文の検索方法について学び、演習する。		松尾 加代	
7	観察研究の論文講読	観察研究に関する英語論文を読み解く		松尾 加代	
8	介入研究の論文講読	介入研究に関する英語論文を読み解く		松尾 加代	
9	RCT研究の論文講読	RCT研究に関する英語論文を読み解く		松尾 加代	
10	アブストラクトの作成(1)	与えられたテーマについて、論文を検索する。入手した論文の本文を読み、アブストラクトを作成する。(グループワーク)		松尾 加代	

11	アブストラクトの作成 (2)	与えられたテーマについて、論文を検索する。入手した論文の本文を読み、アブストラクトを作成する。(グループワーク)	松尾 加代	
12	論文の発表 (1)	個人で検索・精読した論文の概要について発表を行う。	松尾 加代	
13	論文の発表 (2)	個人で検索・精読した論文の概要について発表を行う。	松尾 加代	
14	論文の発表 (3)	個人で検索・精読した論文の概要について発表を行う。	松尾 加代	
15	論文の発表 (4)	個人で検索・精読した論文の概要について発表を行う。	松尾 加代	
成績評価方法	グループワーク及びグループディスカッションの内容 50% 論文発表の内容 50%			
教科書	著者	タイトル	出版社	発行年
	康永秀生	必ず読めるようになる医学英語論文 究極の検索術×読解術	金原出版	2021年
参考文献				
事前・事後学修 留意事項	基本的な英文法を理解し、自主的に英語文献を読む意欲が求められる。			
研究室	1号館 第4研究室	オフィスアワー	開講時に提示する	

科目№	MCS03-1R	授業形態	講義	開講年次	1年次
授業科目名	リハビリテーション疫学・統計学特論	担当教員 E-Mail	中村 美砂		
基本項目	科目区分		単位数		履修期間
	共通科目		必修	2単位	前期 (30h)
授業概要	疫学の理論と統計学的アプローチを統合的に学ぶ。観察研究・介入研究のデザイン、バイアス・交絡の評価、統計解析の基本手法から、実務研究で用いられる解析までを扱う。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究倫理やヒトを対象とする研究規則を理解し、倫理的配慮に基づいた研究計画を立案できる。</li> <li>・文献検索、リサーチクエスチョン設定、研究デザインおよびバイアス対策の基本を理解し、適切に応用できる。</li> <li>・データの種類や記述統計、2変量解析、分散分析、多変量解析などの統計手法を理解し、AI時代における統計解析の役割と限界を区別して活用できる。</li> <li>・対象者選定や質問票作成などの研究実務スキルを身につけ、学んだ知識を統合して自己の研究計画を作成できる。</li> </ul>				
授業回数	テーマ	内容			担当教員
1	研究倫理について	研究倫理の原則やヒトを対象とする研究に対する規則について学ぶ。			中村 美砂
2	文献の検索方法	文献検索のための各種データベースの特徴と検索方法について学ぶ。			大籠 友博
3	研究計画	リサーチクエスチョンの決定と研究計画の作成について学ぶ。			中村 美砂
4	研究デザイン (1) 横断研究・縦断研究・観察研究	横断研究、縦断研究、観察研究の特徴について学ぶ。			中村 美砂
5	研究デザイン (2) 介入研究	ランダム化比較研究について学び、介入研究のバイアスと実施上の課題について理解する。			中村 美砂
6	バイアスの種類と対策	データを取る際の注意点として3つのバイアスとその対策について学ぶ。			岡 健司
7	統計学の基礎 (1) データの種類と記述統計	データの尺度と記述統計量について学ぶ。			岡 健司
8	統計学の基礎 (2) 検定の選択	検定の選択方法について学ぶ			岡 健司
9	統計解析の実際 (1) 2変量解析	相関分析、t検定、カイ二乗検定、Mann-Whitney / Wilcoxon 検定について学ぶ。			岡 健司
10	統計解析の実際 (2) 分散分析	一元配置分散分析、二元配置分散分析、反復測定 ANOVA について学ぶ。			岡 健司

11	統計解析の実際 (3) 多変量分析	重回帰分析やロジスティック回帰などについて学ぶ。	中村 美砂	
12	対象者の選び方	対象者のリクルート方法とサンプルサイズ見積りりの原理について学ぶ。	中村 美砂	
13	質問票のデザイン	質問票の構成要素と、作成のプロセスについて学ぶ。	河野 良平	
14	論文から読み解く統計手法	実際の学術論文を題材に、研究デザインと統計解析手法の選択理由、結果の解釈方法、限界の読み取り方について解説する。	中村 美砂	
15	総括	以上の講義を参考に自己の研究デザインを構築する。	中村 美砂	
成績評価方法	授業への参加状況 (20%)、レポート (80%) などで総合的に評価する。			
教科書	著者	タイトル	出版社	発行年
参考文献	木原雅子、木原正博	医学的研究のデザイン 第4版	メディカル・サイエンス・インターナショナル	2020
	対馬栄輝	理学療法研究法	医歯薬出版株式会社	2021
事前・事後学修 留意事項	特になし			
研究室	1号館5階 第10研究室	オフィスアワー	開講時に提示する	

担当教員：古井・今岡・今井

科目No	MCS04-1R	授業形態	演習	開講年次	1 年次
授業科目名	リハビリテーション疫学・統計学演習	担当教員 E-Mail	古井 透		
基本項目	科目区分		単位数		履修期間
	共通科目		必修	2 単位	前期 (30h)
授業概要	<p>集団における有害事象の減少を目指す疫学の歴史を知り、リハビリテーションにおける研究方法論について整理し、探索や分析、仮説検証に用いる統計手法を演習する。分散分析から統計検定、重回帰分析や時系列分析はじめ、実際に教官らが論文で用いている統計的手法について、実際に統計ソフトを用い体験しながら身につけていく。</p>				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 変数に適した分散分析を実施し適切な検定方法を選べる</li> <li>2. 変数分布などに応じた相関係数が選べる</li> <li>3. 回帰分析や重回帰分析ができる</li> <li>4. 時系列分析の結果が理解できる</li> <li>5. 機械学習を分析に活用できる</li> </ol>				
授業回数	テーマ	内容			担当教員
1	横断研究と縦断研究	コホート研究における横断研究と縦断研究			今岡 真和
2	観察研究と介入研究	観察研究と介入研究の計画立案の方法			今岡 真和
3	記述統計と推測統計	データの記述と推測に関する統計方法			今岡 真和
4	有意差の検定とリスク比較	有意差検定、リスクの比較を理解する。			今岡 真和
5	相関・回帰分析	相関分析と回帰分析を理解し活用する			今岡 真和
6	正規分布でない場合のノンパラメトリック検定	ウイルコクソン検定、クラスカルウォリス検定、フリードマン検定			今岡 真和
7	2元配置分散分析	対応の無い因子と対応のある因子の分散分析の手順など			今井 亮太
8	線型混合モデル	二元配置分散分析では扱いきれないデータ応用を学ぶ			今井 亮太
9	回帰分析 (PC 持参)	2項ロジスティック回帰の統計解析			古井 透
10	回帰分析 (PC 持参)	順序回帰によるデータ分析			古井 透
11	経験分布関数の差の検定と重み付けのある有効率の差の検定 (PC 持参)	コルモゴロフ・スミルノフ検定、マンテル・ヘンツェル検定			古井 透
12	生存時間解析 (PC 持参)	カプランマイヤー法による生存曲線とログランク検定による差の検定			古井 透
13	生存時間解析 (PC 持参)	比例ハザード性の検証とコックス回帰分析			古井 透
14	分割表とベイズ統計	分割表の検定を知り、事前確率・事後確率の意味を考える。			古井 透
15	適切な統計手法の選択と解釈② (PC 持参)	データセットから解析を実施し結果を解釈する			古井 透
成績評価方法	各講師からの授業態度の評価 (90%) 最終レポート (10%)				

教科書	著者	タイトル	出版社	発行年
	久保田基夫、石村光資郎	SPSS による医学・歯学・薬学 のための統計解析 第5版	東京図書	2022年
参考文献				
事前・事後学修 留意事項				
研究室	1号館5階 第20研究室	オフィスアワー	授業終了後、質問を受け付ける	

担当教員：武田・堺

科目№	MCS05-1R	授業形態	講義	開講年次	1年次
授業科目名	認知機能・認知予備力特論	担当教員 E-Mail	武田 雅俊		
基本項目	科目区分		単位数		履修期間
	共通科目		必修	2単位	後期(30h)
授業概要	<p>認知機能は、広義には大脳機能全体をさす場合もあるが、狭義には知覚連合野・運動連合野・辺縁系を中心とした大脳領域により担われる。認知機能は加齢によりゆっくりとした低下を示すだけでなく様々な精神神経疾患により障害される。このような認知機能と人の社会生活との関わりについて学修する。</p> <p>認知予備力とは、脳の老化や病理過程に拮抗して認知機能を維持する能力のことであるが、認知予備力について、脳予備力と対比させながら理解し、認知予備力を低下・向上させる因子について学修する。脳内病理と臨床症状の間に介在し、認知機能を維持する作用が想定されており、知能(IQ)・教育歴・仕事・趣味・社会参画などの心理社会要因により影響されていることも知られているが、認知予備力の生物学的な本体については殆ど解明されていない。本科目では、認知予備力の概念と最新の知見を総合的に学び、認知予備力を高める方策を考える能力を学修する。</p> <p>脳科学リハビリテーションのセミナーに参加して、能動的に学習する</p>				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ヒトの生活における認知機能の重要性を理解することができる</li> <li>2. 認知機能を低下あるいは向上させる因子について理解することができる</li> <li>3. 認知予備力について最新の知見を理解することができる</li> <li>4. 認知予備力を低下あるいは向上させる因子について理解することができる</li> <li>5. 認知予備力の生物学的本体について理解することができる</li> <li>6. 認知予備力を向上させる戦略について考えることができる</li> </ol>				
授業回数	テーマ	内容			担当教員
1	認知機能・認知予備力の神経機構	認知機能と認知機能障害の神経基盤を学び、認知予備力のメカニズムを考える			武田 雅俊
2	加齢による認知機能低下と軽度認知機能障害(MCI)の臨床	認知機能の基盤と脳老化による認知機能低下機序とMCIの病態について学修する。			武田 雅俊
3	認知症の臨床	認知症の臨床病像とその予防法について学修する。			武田 雅俊
4	認知予備力の概念とライフスタイル	認知予備力の概念とライフスタイルとの関係について学修する。			武田 雅俊
5	認知機能と健康寿命	認知予備力を活用した百寿者を目指す方法について学修する			武田 雅俊
6	認知予備力を低下させる因子	認知予備力を低下させる生物心理社会的要因について学修する。			武田 雅俊
7	認知予備力を維持・向上させる因子	認知予備力を維持・向上させる生物心理社会的要因について学修する。			武田 雅俊
8	認知機能の神経解剖学、正常な家系変化と病的な加齢変化	認知機能の基盤となる神経解剖学、加齢変化について学修する。			武田 雅俊
9	認知症脳の病理(マクロ)	認知症をきたす各種疾患の神経解剖学(マクロ)所見について学修する。			武田 雅俊

10	脳老化の生理学的変化と生理学的指標	脳の老化に伴う生理学的変化と生理学的評価方法及び検査手法について学修する。	武田 雅俊	
11	認知症脳の病理(ミクロ)	認知症をきたす各種疾患の神経解剖学(ミクロ)所見について学修する。	武田 雅俊	
12	認知機能・認知予備力特論 CRRC セミナー (1)	セミナーに参加し、本授業科目の視点から意見を発表する	堺 景子	
13	認知機能・認知予備力特論 CRRC セミナー (2)	セミナーに参加し、本授業科目の視点から意見を発表する	堺 景子	
14	認知機能・認知予備力特論 CRRC セミナー (3)	セミナーに参加し、本授業科目の視点から意見を発表する	堺 景子	
15	認知機能・認知予備力特論 CRRC セミナー (4)	セミナーに参加し、本授業科目の視点から意見を発表する	堺 景子	
成績評価方法	各授業科目における理解度・小テスト(50%)、筆記試験・レポートなど(50%)で総合的に評価する			
教科書	著者	タイトル	出版社	発行年
	日本精神神経学会	「認知症診療医テキスト」	新興医学出版	2019
	CRRC セミナー	CRRC セミナーの講演抄録		
参考文献				
事前・事後学修 留意事項	特になし			
研究室	1号館 学長室	オフィスアワー	開講時に提示する	

担当教員：古井・村川・久利・武井・嶋野・馬屋原

科目№	MCS06-1R	授業形態	講義	開講年次	1年次
授業科目名	地域支援学特論	担当教員 E-Mail	古井 透		
基本項目	科目区分		単位数		履修期間
	共通科目		必修	2単位	後期(30h)
授業概要	<p>地域支援学特論では、少子高齢化によって地域が危機に瀕したと捉えがちな傾向とは一線を画し、そのような「逆境」にこそ活路を見出そうとする。住民による連帯や工夫によって地域の課題解決に貢献する挑戦を担えるような、医療・リハビリテーション機関、NPO、社会福祉法人、民間など多様なセクターの人材への教育の機会を提供していきたい。リハビリテーションに造詣が深く厚生行政の実務経験や国際的視野から社会福祉学において著名な(日本社会事業大元教授)をむかえ、本学教員と協働しながら社会的な視点と実践力を学修する科目である。</p>				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 逆転の発想ができる</li> <li>2. 住民主体の地域づくりを定義できる</li> <li>3. 社会への情報発信の姿勢をもてる</li> <li>4. 聴覚障害を身近に捉え、地域支援のあり方を考えることができる</li> <li>5. 生活行為向上へむけ工夫と連帯について考えることができる</li> <li>6. 社会資源の側からのアプローチ何が望まれるか考えることができる</li> </ol>				
授業回数	テーマ	内容			担当教員
1	情報生産者になる	身近な環境の課題(例えばアクセシビリティ)を調査し得られた情報を発信する。			久利 彩子
2	制度と地域支援	介護保険以前の在宅介護について1990年の広島・熊野町の取り組みを学修する。			古井 透
3	地域社会の分析視点	地域支援学における集団の考え方(テニス、マッキーバーほか)を学修する。			村川 浩一
4	危機管理(個別集団/自治体)	南海トラフなどを事例として			村川 浩一
5	事例研究(連携の要点+困難事例)1	受講生からの発言を中心に			村川 浩一
6	事例研究(連携の要点+困難事例)2	受講生からの発言を中心に。			村川 浩一
7	障害観と地域支援	熊野町での地域住民・高齢者を巻き込んだ挑戦の意義について学修する。			古井 透
8	難聴者の地域生活を支える	難聴者を支える地域の資源や周囲の人への障害理解を広める支援について学修する。			馬屋原 邦博
9	リーチアウトではなくリーチ・インについて	リハビリテーション医療機関、社会福祉法人の地域における貢献を学修する。			嶋野 広一
10	マネジャーが求められること	自助グループ、NPO、介護施設、行政など多様なマネジャーに求められる事を学修する。			嶋野 広一
11	専門職から見た住民主体の地域支援	住民主体の地域づくりにおいて、専門職が果たす役割と関わり方を事例を通して考える。			武井 麻喜
12	生活行為を手がかりとした地域課題の理解	生活行為を手がかりに地域課題を整理し、住民の工夫や連帯の可能性を検討する。			武井 麻喜
13	当事者でなくても関係者	その後の自らの体験などをもとに、高齢社会の到来にふさわしい人生観について考える。			古井 透

14	キーパーソンになる	各自が当事者でなくても関係者となる話題を発表する	古井 透・村川 浩一	
15	まとめ	学生からのフィードバックと質疑応答	古井 透・村川 浩一	
成績評価方法	14 講と最終講での発表内容、それが困難なら期末レポート「地域支援とは何か」のいずれかで評価する。			
教科書	著者	タイトル	出版社	発行年
	開講後に指定する			
参考文献				
事前・事後学修 留意事項	地域支援の経験を有することが望ましい。			
研究室	1号館5階 第20研究室	オフィスアワー	授業終了後、質問を受け付ける	

担当教員：武田・上田

科目№	MSS01-1E	授業形態	講義	開講年次	1年次
授業科目名	認知リハビリテーション学概論	担当教員 E-Mail	武田 雅俊		
基本項目	科目区分		単位数		履修期間
	支持科目		選 択	2 単位	前期 (30h)
授業概要	<p>認知リハビリテーション学は、未だ社会的に十分には浸透していない学問領域であるが、①脳機能改善を目指したリハビリテーション、②認知症の人に対するリハビリテーション、③認知機能改善を介した行動変容の三領域をカバーしている。認知機能および認知機能障害の生理機能や病理病態を理解したうえで、リハビリテーションの生理学的機序、リハビリテーションの評価、リハビリテーション技術の改善などに結び付ける新しい学問領域について学修する。本科目では、認知機能、認知症、認知行動療法についての最新知見についての論文を精読しながら、これからのリハビリテーション技法の開発につなげる試みについて学修する。</p>				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 認知機能と生活機能との関係を正しく理解することができる</li> <li>2. 認知機能の生物学的基盤を理解することができる</li> <li>3. 認知症の病態・症状・評価法を理解することができる</li> <li>4. 認知行動療法と行動変容の機序を理解することができる</li> <li>5. リハビリテーションの有効性を高めるための認知機能の役割を理解することができる</li> <li>6. 認知機能改善を組み合わせた新しいリハビリテーション技法を考えることができる</li> </ol>				
授業回数	テーマ	内容			担当教員
1	認知リハビリテーション学概論が目指しているもの	ヒトの生活全体における認知機能の重要性とリハビリテーションに期待される課題と目標について学修する			武田 雅俊
2	認知症のリハビリテーション医学医療テキストⅠ-1,2,3,4章	リハビリテーション医学の全体について理解する			武田 雅俊
3	認知症のリハビリテーション医学医療テキストⅠ-5,6,7,8,章	リハビリテーション医療の実際を全体的に理解する			武田 雅俊
4	認知症のリハビリテーション医学医療テキストⅡ-1,2,3章	認知症の概念・分類と臨床像について学修する			武田 雅俊
5	認知症のリハビリテーション医学医療テキストⅡ-4,5章	アルツハイマー病の薬物療法と BPSD への対応について学修する			武田 雅俊
6	認知症のリハビリテーション医学医療テキストⅢ-1章	認知症の身体合併症・神経症状とケアの体制について学修する			上田 有紀人
7	認知症のリハビリテーション医学医療テキストⅢ-2章	認知症の人に対する各種リハビリテーションの実際について学修する			上田 有紀人
8	認知症のリハビリテーション医学医療テキストⅢ-3章	認知症の人の意思能力、地域医療と介護保険制度、社会福祉制度について学修する			武田 雅俊
9	認知症のリハビリテーション医学医療テキストⅢ-4章	認知症の人を支える地域ケア、社会生活支援、について学修する			武田 雅俊
10	認知症のリハビリテーション医学医療テキストⅢ5章	認知症の人に対する有効なリハビリテーションの戦略について学修する			武田 雅俊
11	認知症のリハビリテーション医学医療テキストⅢ-6章	認知症に対する精神療法・生活療法・薬物療法をどのようにリハビリテーションとして統合するかを学修する			武田 雅俊

12	認知行動療法・メタ認知トレーニング	認知行動療法およびメタ認知トレーニングの技法を学修する	武田 雅俊	
13	脳刺激法・ニューロモデュレーション	脳刺激法(ECT, rTMS, DBS)の方法とニューロモデュレーションのリハビリテーションへ適応について学修する	武田 雅俊	
14	薬物療法のリハビリテーションへの応用	幻覚誘発剤(LSD, シロシビン)、ケタミンなど中枢作用薬物のリハビリテーションにおける応用について学修する	武田 雅俊	
15	リハビリテーションの新しい技術	将来的な認知リハビリテーションの技法を学修する	武田 雅俊	
成績評価方法	各授業科目における理解度・小テスト(50%)、筆記試験・レポートなど(50%)で総合的に評価する			
教科書	著者	タイトル	出版社	発行年
	久保俊一・武田雅俊編集	認知症のリハビリテーション医学・医療テキスト	日本リハビリテーション医学教育推進機構	2025
	日本精神神経学会	認知症診療医テキスト2 症例と Q&A	新興医学出版	2021
参考文献				
事前・事後学修留意事項	日本リハビリテーション医学教育推進機、および、日本精神神経学会による認知症テキスト 1 と 2 を教科書と参考書として使用するの、事前に各自読んでほしい			
研究室	1号館 学長室	オフィスアワー	開講時に提示する	

科目№	MSS05-1E	授業形態	講義	開講年次	1年次
授業科目名	地域社会福祉制度特論	担当教員 E-Mail	野村 和樹		
基本項目	科目区分		単位数		履修期間
	支持科目		選択	2単位	後期(30h)
授業概要	<p>本講義においては、まずはオンデマンドで情報を提供し、受講生はそのテーマに沿った、20分程度のパワーポイントによる発表を次回に行い、その後ディスカッションを行う。このような授業形態をとることで理解を深め、テーマにそって持論を展開できるように進めたい。</p> <p>ある事象が社会問題として取り上げられ、それが人間の尊厳を脅かしたり、あるいは健康で文化的な最低限度の生活を営むための基本的要求が満たされない事態に陥るときに、それらへの支援の施策が設けられる。</p> <p>社会福祉における施策を実施するためには、まず根拠となる法律が制定され、その法律に基づき支援が実施される。社会問題として取り上げられるのであるから、当然のことながら社会情勢が反映される。</p> <p>社会情勢と立法の関わりも含め、これまでに制定された様々な法律の制定過程を理解し、後半では、今日の地域における支援の形態とその根拠となる法律に着目して学修を進めたい。</p> <p>また、社会福祉の制度にのっとり地域で展開される支援を地域社会福祉の制度とし、社会福祉の施策に基づく支援により、基本的要求が満たされ尊厳の回復、健康で文化的な生活を取り戻すことも、社会的なリハビリテーションと捉えた学修を展開する。</p>				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会の背景が法律制定に及ぼす影響が理解できる</li> <li>2. 権利に関わる国際法が制定された過程を理解ができる</li> <li>3. 法律を根拠とした支援ならびに制度が理解できる</li> <li>4. 制度を根拠とし、個々に応じた支援計画が立案できる</li> <li>5. 事例を通して社会的リハビリテーションが理解できる</li> </ol>				
授業回数	テーマ	内容		担当教員	
1	児童福祉以前の児童に関わる法律 I	1802年に制定された『徒弟の健康と道徳に関する法』と1889年にイギリスにおいて制定された『児童虐待防止法』から立法と社会情勢の関りを学ぶ		野村 和樹	
2	児童福祉以前の児童に関わる法律 II	発表とディスカッション		野村 和樹	
3	『児童福祉法』 I	今日の日本における社会福祉のはじまりともいえる『児童福祉法』の成立過程について学ぶ		野村 和樹	
4	『児童福祉法』 II	発表とディスカッション		野村 和樹	
5	『身体障害者福祉法』 I	『身体障害者福祉法』の成立過程について学ぶ		野村 和樹	
6	『身体障害者福祉法』 I	発表とディスカッション		野村 和樹	
7	『知的障害者福祉法』 I	『知的障害者福祉法』の成立過程について学ぶ		野村 和樹	
8	『知的障害者福祉法』 II	発表とディスカッション		野村 和樹	

9	『児童虐待の防止等に関する法律』と制度施策Ⅰ	『児童虐待防止法』から児童虐待の定義を理解し、児童虐待について学ぶ	野村 和樹
10	『児童虐待の防止等に関する法律』と制度施策Ⅱ	発表とディスカッション	野村 和樹
11	障害者基本法と障害者総合支援法Ⅰ	今日の障害者福祉の支援について学ぶ	野村 和樹
12	障害者基本法と障害者総合支援法Ⅰ	発表とディスカッション	野村 和樹
13	児童虐待予防のための包括的な支援Ⅰ	子育て世代包括支援センターと子ども子育て支援法に定められている「利用者支援事業」との関係を理解し、健やかな育ちの環境を学ぶ	野村 和樹
14	児童虐待予防のための包括的な支援Ⅱ	発表とディスカッション	野村 和樹
15	総括	各回の講義を振り返ることで、法律を根拠とした支援の関係を学ぶ	野村 和樹
成績評価方法	発表の内容とディスカッション		
教科書	著者	タイトル	出版社
	授業内で適宜レジュメ、資料を配布		
参考文献	授業内で適宜紹介する		
事前・事後学修 留意事項	配付された資料をクリティークし、知識の集積を行い、自分の考えをまとめる。		
研究室	1号館 野村研究室	オフィスアワー	開講時に提示する

担当教員：武田・松尾・堺

科目No.	MSS06-1E	授業形態	講義	開講年次	1年次
授業科目名	心のサイエンスと臨床心理学	担当教員 E-Mail	武田 雅俊		
基本項目	科目区分		単位数		履修期間
	支持科目		選択	2単位	後期(30h)
授業概要	<p>ヒトは、外界からの刺激と情報を取り入れて、脳内に蓄えられた経験や知識と照らし合わせて自分の意識的な行動を決定するが、ヒトの行動には、意識的な行動だけでなく、疾病や性格や薬物などに影響された無意識的な行動もある。本科目では、ヒトの行動決定メカニズムについて理解するとともに、多くの人の行動が生物学的側面と心理学的側面から説明できることを学修し、いくつかの精神症状や心理学的現象の発症メカニズムについて学修することにより、脳と心の懸け橋としての臨床症状について、理解を深める。</p>				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 性格に基づく行動パターンの違いを理解できる</li> <li>2. 脳内情報処理過程について理解する</li> <li>3. 脳老化に伴う行動パターンや心理学的変化を理解する</li> <li>4. ヒトの行動決定の様式を生物学的・心理学的に説明できる</li> <li>5. 高齢者の心理・行動パターンを理解できる</li> <li>6. メタ認知、歪・誤認知のメカニズムを知り、行動パターンを理解する</li> </ol>				
授業回数	テーマ	内容		担当教員	
1	行動パターンと性格	ヒトの行動形式や行動パターンと性格との関係について学ぶ。		武田 雅俊	
2	脳が見ている世界	脳視覚野における視覚系情報処理の方法について説明し、錯視・幻視の機序を学ぶ。		武田 雅俊	
3	脳内報酬系と嗜癖・常同行動	ヒトが繰り返して行う行為行動について脳内報酬系の関与を学ぶ。		武田 雅俊	
4	寿命と高齢者の行動パターン	高齢者に特徴的な行動パターンと認知機能との関係について学ぶ。		武田 雅俊	
5	高齢者の認知機能・軽度認知障害	加齢による脳老化と認知機能低下との関係について学ぶ。		武田 雅俊	
6	精神障害とは	精神障害の病態と発症要因について学ぶ		武田 雅俊	
7	脳科学は進歩したのか-この百年間の脳科学の進歩	百年間の脳科学の歴史を振り返りながら、ヒト脳機能の変化と将来について学ぶ。		武田 雅俊	
8	精神医学マイテキスト 1,2,3章	精神障害の病態と発症要因について学ぶ		堺 景子	
9	精神医学マイテキスト 4,5章	精神障害の分類と検査法と鑑別診断法について学ぶ		堺 景子	
10	精神医学マイテキスト 6,7章	発達障害と統合失調症について学ぶ		堺 景子	
11	精神医学マイテキスト 8,9章	気分障害と不安障害について学ぶ		堺 景子	
12	メタ認知 (1)	メタ認知の特徴とモニタリング機能について学修する		松尾 加代	
13	メタ認知 (2)	メタ認知の評価法について学修する		松尾 加代	

14	メタ認知 (3)	メタ認知の発達について学修する	松尾 加代	
15	メタ認知 (4)	メタ認知の神経科学的基盤と臨床での活用方法について学修する	松尾 加代	
成績評価方法	各授業科目における理解度・小テスト(50%)、筆記試験・レポートなど(50%)で総合的に評価する			
教科書	著者	タイトル	出版社	発行年
	武田雅俊、工藤喬	心のサイエンス -精神医学の進む道-	メディカルレビュー社	2006
	武田雅俊編	精神医学マイテキスト	金芳堂	2026
	清水寛之	メタ記憶 記憶のモニタリング とコントロール	北大路書房	2009
参考文献				
事前・事後学修 留意事項	特になし			
研究室	1号館 学長室	オフィスアワー	開講時に提示する	

科目No	MSS07-1E	授業形態	講義	開講年次	1年次
授業科目名	ヘルスプロモーション学概論	担当教員 E-Mail	中村 美砂		
基本項目	科目区分		単位数		履修期間
	支持科目		選択必修	2単位	後期(30h)
授業概要	ヘルスプロモーションの基本理念を理解し、療法士として地域・医療・介護分野における健康づくり支援を科学的に実践できる能力を養う。加えて、エビデンスに基づいた介入計画立案、評価、研究的視点を身につけることを目的とする。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>WHOや主要フレームワーク（オタワ憲章、バンコク憲章等）を理解し説明できる。</li> <li>健康指標（身体機能・口腔機能・活動量・QOL等）の評価方法を説明できる。</li> <li>ヘルスプロモーションにおける行動科学・行動変容理論を説明できる。</li> <li>療法士としての専門性を生かした健康支援モデルを構築・提案できる。</li> </ol>				
授業回数	テーマ	内容			担当教員
1	ヘルスプロモーション総論	ヘルスプロモーションの歴史を理解し、定義について学ぶ。			中村 美砂
2	フレイルの理解とその関連用語の整理	フレイルの原因とフレイルサイクル、サルコペニア、ロコモティブシンドロームについて学ぶ。			中村 美砂
3	高齢者の評価	ヘルスプロモーションにおける評価の意義について学ぶ。			古井 透
4	高齢者の身体機能評価(1)	形態測定、身体組成、柔軟性、筋力、バランス機能、歩行能力、活動能力の各評価方法の特徴と実施方法を学ぶ。			今岡 真和
5	高齢者の身体機能評価(2)	持久力、呼吸機能、循環器の各評価方法の特徴と実施方法について学ぶ。			今岡 真和
6	高齢者の認知機能、精神・心理機能およびQOLの評価	認知機能、精神・心理機能、QOLの各評価方法の特徴と実施方法について学ぶ。			今岡 真和
7	ヘルスプロモーションの実践(1) サルコペニア予防	サルコペニア予防に効果的なトレーニングについて学ぶ。			今岡 真和
8	ヘルスプロモーションの実践(2) 転倒予防	高齢者の転倒発生状況、転倒要因、ならびに機能レベルに応じた転倒予防方法を学ぶ。			今岡 真和
9	ヘルスプロモーションの実践(3) 認知症予防	認知症予防施策の現状と課題、ならびに認知症の危険因子と保護因子について学ぶ。			中村 美砂
10	ヘルスプロモーションの実践(4) 生活習慣病予防・改善	生活習慣病改善のための身体活動・運動の特徴を学ぶ。			中村 俊介

11	行動科学とヘルスプロモーション	運動を習慣化させることの必要性について理解し、行動変容ステージを活用して運動習慣化の支援方法を学ぶ。	中村 俊介	
12	ヘルスプロモーションのための栄養の知識と口腔衛生	高齢者の特性と栄養管理、口腔衛生管理について学ぶ。	今岡 真和	
13	要介護高齢者のヘルスプロモーション	要介護高齢者の住宅、入所施設、通所施設でのヘルスプロモーションを効果的に展開するための視点について学ぶ。	古井 透	
14	ヘルスプロモーション関連法規	健康増進法、老人保健法、介護保険法、その他の関係法規について学ぶ。	今岡 真和	
15	総括	以上の講義を振り返り、自己の専門性を活かしたヘルスプロモーション計画を立案してみる。	中村 美砂	
成績評価方法	授業への参加状況 (20%)、レポート (80%) などで総合的に評価する。			
教科書	著者	タイトル	出版社	発行年
参考文献	日本ヘルスプロモーション理学療法学会	理学療法士・作業療法士のためのヘルスプロモーション 理論と実践 (第2版)	南江堂	2023年
事前・事後学修留意事項	特になし			
研究室	1号館5階 第10研究室	オフィスアワー	開講時に提示する	

科目No.	MSS09-1E	授業形態	講義	開講年次	1年次
授業科目名	園芸療法補完代替医療	担当教員 E-Mail	久利 彩子		
基本項目	科目区分		単位数		履修期間
	支持科目		選 択	2 単位	後 期 (30h)
授業概要	<p>リハビリテーション領域には、園芸療法、動物介在療法、音楽療法、芸術療法、スヌーズレン、内観療法など様々な療法が活用されている。これらの中にはエビデンスに乏しいものもあるが、リハビリテーション領域の多彩な活動を概説したあとに、代表的なものとして園芸療法を取り上げて学修する。</p> <p>本科目の目標は、1.園芸療法の対象となる人の特性を考慮し、2.対象者の効果的な園芸療法を実施する場合の環境について考え、3.適切な園芸療法プログラムを立案するための心身機能を解析し、4.園芸療法介入および評価方法を学び、5.症例検討を行う力を育むことである。</p>				
到達目標	<p>1.様々な補完代替療法についての知識を得る。  2.園芸療法の目的を理解し、対象となる人の特性を考慮した選択ができる。  3.対象者にとって効果的な園芸療法を計画し、適切な園芸療法プログラムを実践できる。  4.園芸療法介入の評価を行うことができる。</p>				
授業回数	テーマ	内容		担当教員	
1～2	活動分析「育てる」① 土つくりと精神・身体・社会機能への影響	耕起動作と身体へのストレス、作業高さと身体への影響、土の種類・加水による（感覚入力の違いによる）筋緊張への影響、障害別の効果について学修する。		久利 彩子	
3～4	活動分析「育てる」② 種まき・球根・苗の定植と精神・身体・社会機能への影響	移植ごとと上肢関節可動域、協調性と定植動作、障害別種まきの手法の区別と巧緻動作維持向上について学修する。		久利 彩子	
5～6	活動分析「育てる」③ 水やり、間引きと精神・身体・社会機能への影響	水やりの道具によるヒト機能への影響、重量の違いとヒト機能への影響について学修し、つまみ動作の種類、はさみとヒト機能、障害別水やり、間引きの工夫などについて学ぶ。		久利 彩子	
7～8	活動分析「育てる」④ 収穫、利活用と精神・身体・社会機能への影響	場面とヒト機能、障害別収穫、利活用における身体機能への影響を学修する。		久利 彩子	
9	園芸療法プログラムの臨床応用効果判定に必要な評価項目	園芸療法プログラムの臨床応用効果判定に必要な評価項目を学修する。		久利 彩子	
10	身近な植物を使用する園芸療法プログラムの計画	身近な植物を使用する園芸療法プログラムの計画方法を学修する。		久利 彩子	
11	身近な植物を使用する園芸療法プログラムの健常成人での実践と活動分析および実践環境の考察	園芸療法プログラムの健常成人での実践と活動分析および実践環境について学修する。		久利 彩子	
12	園芸療法プログラムの臨床応用① 残存機能と園芸療法プログラム	計画と実践についてまとめて発表する。		久利 彩子	
13	園芸療法プログラムの臨床応用② 残存機能と園芸療法プログラム	中間報告としてまとめる。		久利 彩子	

14	園芸療法プログラムの臨床応用③ 残存機能と園芸療法プログラム	最終報告を発表する。	久利 彩子
15	まとめ	最終レジュメを提出し評価を受ける。	久利 彩子
成績評価方法	演習への取組内容および発表と最終レジュメにより評価する		
教科書	著者	タイトル	出版社
	必要に応じてオリジナル 資料を配布する		
参考文献			
事前・事後学修 留意事項	植物栽培、園芸について興味を持っていることが望ましい。		
研究室	1号館5階 第9研究室	オフィスアワー	開講時に提示する

科目№	MSR01-1E		授業形態	講義	開講年次	1年次
授業科目名	運動機能リハビリテーション学特論		担当教員 E-Mail	金尾 顕郎		
基本項目	科目区分			単位数		履修期間
	専門科目	リハビリテーション領域		選択必修	2単位	前期 (30h)
授業概要	<p>健康寿命の延伸を阻害する重要な因子として、認知機能障害と運動機能障害が今日の健康課題となっている。近年、これらは互いに深く関連しており、領域横断的に二次予防の領域からのアプローチが展開されている。本科目では、老年症候群が将来の認知症発症リスクと密接に関わっていることから、運動器の視点から考える認知症予防の学術的基盤を養う。</p> <p>また従来、リハビリテーション医療が担ってきた様々な疾病や要介護状態などの重症化予防と再発予防といった三次予防の観点から、成長期に見られる疾患の重度化予防、二次予防の領域よりスポーツ活動に付随する傷害の予防や就労者の腰痛問題、さらに地域における老年症候群の安全な暮らしのための施策策定に関わる研究など多角的に学び、臨床・研究における視点を学修する</p>					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 認知・運動機能の評価や治療の具体的な方略、研究手法について多面的な視点を学ぶ。</li> <li>2. 加齢医学分野における老年症候群やフレイルについて理解し、予防策・改善策を実践できる。</li> <li>3. 科学的知見から廃用症候群の予防法が論証できる。</li> <li>4. 疼痛メカニズムの理解ができる。</li> <li>5. 二次障害予防に必要な態度・関わり方・環境が例示できる</li> <li>6. 支援技術を介して当事者イニシアティブを推進できる</li> <li>7. 研究の意味を理解し、研究活動を習慣化し、倫理的配慮ができる。</li> </ol>					
授業回数	テーマ	内容			担当教員	
1	重力と運動制御	Klein-Vogelbach の呈する Functional Kinetics の観点から、運動制御機構を解説する。			金尾 顕郎	
2	予測的姿勢調節 (APA) 再考と運動における姿勢反応 (synergy と strategy)	予測的姿勢調節 (APA) を、運動の発現における随意性・非随意性を踏まえ、運動療法につなげる方法を考え、神・経筋再教育における力学的考察と姿勢における神経機構についても説明する。			金尾 顕郎	
3	肩関節疾患の病態と機能評価	肩関節疾患 (腱板断裂を中心に) の病態と運動学的特徴を整理し、バイオメカニクスに基づいた機能評価について学ぶ。			村西 壽祥	
4	肩関節疾患の病態とバイオメカニクスに基づく理学療法戦略	肩関節疾患 (腱板断裂を中心に) の疼痛、可動域制限因子、筋機能障害を整理し、病態とバイオメカニクスに基づいた理学療法介入について学ぶ。			村西 壽祥	
5	疼痛学の基礎	疼痛の基礎について学修する			今井 亮太	

6	疼痛学の評価とリハビリテーション	疼痛に関する評価とリハビリテーションを学修する	今井 亮太	
7	運動機能障害に対する超音波エコー活用	超音波画像所見のみかたと病態解釈	千葉 一雄	
8	肩甲帯部・上肢のしびれと痛み	頸部障害の病態を末梢神経障害性疼痛として超音波エコーで可視化し、理学療法治療に生かす	千葉 一雄	
9	従来の運動機能評価・治療を現在の知見から考える	従来行われていた運動器の評価や治療が、新しい研究やガイドラインで修正されているにも関わらず臨床で広まっていない点について解説する	河村 廣幸	
10	広範切除術から見る動作分析の問題	現在あたかも検査測定の頂点のように扱われている動作分析が、実は期待するほどの妥当性を持っていないことを種々の筋切除から解説する	河村 廣幸	
11	認知予備力の神経基盤	認知症予防において重要となる認知予備力の神経基盤について学ぶ。	白岩 圭悟	
12	運動機能と神経心理症状	神経心理学的の基本的概念を踏まえ、脳血管障害や神経変性疾患による生じる神経心理学的症状と運動機能との関連について解説する。	上田 有紀人	
13	老年症候群と認知・運動機能障害	老年症候群について理解し、予防理学療法学としてのポピュレーションアプローチとハイリスクアプローチを学ぶ	峰久 京子	
14	ライフステージ別にみた予防理学療法学のアプローチ	学童期における健康課題として近年問題となっている子どもロコモを取り上げ、運動器検診と事後措置としての地域包括ケアについて学ぶ。	峰久 京子	
15	総括およびフィードバック	まとめおよび総括を行う。	金尾 顕郎	
成績評価方法	各授業科目における理解度・小テスト(50%)、筆記試験・レポートなど(50%)で総合的に評価する			
教科書	著者	タイトル	出版社	発行年
	必要に応じて配布または指定する			
参考文献	適宜紹介する			
事前・事後学修留意事項	授業テーマに沿った専門書や文献に目を通し、配布資料をもとに復習してください。			
研究室	各担当教員 研究室	オフィスアワー	各担当教員 オフィスアワー	

科目№	MSR02-1E		授業形態	演習	開講年次	1年次
授業科目名	運動機能リハビリテーション学演習		担当教員 E-Mail	金尾 顕郎		
基本項目	科目区分			単位数		履修期間
	専門科目	リハビリテーション領域		選択必修	2単位	後期(30h)
授業概要	<p>運動機能リハビリテーション学特論で学んだことをベースに、最新の知見と既存の方法論を実施し学際的に学ぶことで、個々の研究の方法論及び介入法を発展させる。</p> <p>文献レビュー・症例検討を行い、問題点や研究手法について討論する。また、専門的リハビリテーションの実践と研究としての評価や治療のあり方を学び、そして、予防の相やライフステージに応じた健康課題にフォーカスするための量的データや質的データの取り扱いを含めた包括的アセスメントのあり方や、課題の解決に向けたハイリスクアプローチとポピュレーションアプローチの方法を学ぶ。さらに、地域在住高齢者に対するフィールドワークに参加し、認知・運動機能の評価やリハビリテーションの実実施計画、研究手法について多面的な視点を学ぶ。</p>					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. リハビリテーション学領域における研究対象を理解し、説明できる</li> <li>2. 研究に必要な理論と手法に関する基礎知識を身につけ、説明できる。</li> <li>3. 自己のテーマに関する文献を選択して、批判的吟味を行い発表できる。</li> <li>4. 地域在住者を対象に科学的な検査・測定ができ、老年症候群の種々の判定が適切に行える。</li> <li>5. 認知・運動機能障害に関する評価、治療について概説できる。</li> <li>6. 対象者に適切な疼痛の評価、治療が選択できる。</li> <li>7. 障害とともに生きる人の生活機能の包括的評価ができる。</li> <li>8. 支援技術を障害の社会的認知の改善に応用できる。</li> </ol>					
授業回数	テーマ	内容			担当教員	
1	研究の進め方と文献レビューについて	基本的な研究の流れと文献収集の方法、論文の批判的吟味について学ぶ。			峰久 京子	
2	研究デザインの基礎知識と倫理指針について	様々な研究デザインとガイドライン、倫理指針について学ぶ。			峰久 京子	
3	肩関節疾患に対する機能的評価の実践	肩関節疾患(腱板断裂を中心に)に対する機能評価方法と研究手法について学ぶ。			村西 壽祥	
4	肩関節疾患に対する理学療法介入の実践	肩関節疾患(腱板断裂を中心に)に対する機能評価に基づいた具体的な運動療法と研究手法について学ぶ。			村西 壽祥	
5	疼痛学に関する論文の批判的吟味Ⅰ	疼痛に対する評価について論文検索し、批判的吟味を行う			今井 亮太	
6	疼痛学に関する論文の批判的吟味Ⅱ	疼痛に対するリハビリテーションについて論文検索し、批判的吟味を行う			今井 亮太	
7	運動機能障害を画像評価で捉える	肩腱板断裂・凍結肩をMRIと超音波エコーで比較して読み解く①			千葉 一雄	
8	運動機能障害を画像評価で捉える	肩腱板断裂・凍結肩をMRIと超音波エコーで比較して読み解く②			千葉 一雄	

9	研究に役立つスマホ術	スマートフォンは従来の電話機ではなく、情報研究端末である。身近なスマホが研究でどのように役立つのか、利用法について解説する。	河村 廣幸	
10	医学写真・医学動画の撮り方	研究に必須の映像記録について、医学写真・医学動画の観点から撮影方法やデータ保管について説明する。	河村 廣幸	
11	脳機能リハビリテーション	脳機能を神経科学的に捉える視点を学ぶ。	白岩 圭悟	
12	できなくなる行為の障害と してしまう行為の障害・左右 半球間抑制障害について	運動障害や感覚障害を伴わない高次脳機能障害について解説し、その評価方法について解説する。	上田 有紀人	
13	呼吸リハビリテーションと 体幹機能	呼吸器障害に対するアプローチの理論と実について実技を交えて説明する	金尾 顕郎	
14	嚥下リハビリテーションと 体幹体幹機能	嚥下障害に対するアプローチの理論と実際について実技を交えて説明する	金尾 顕郎	
15	総括およびフィードバック	各院生がテーマとする論文あるいは症例についてプレゼンテーションし、グループ討論を行う。全体のまとめと総括を行う。	金尾 顕郎	
成績評価方法	各授業科目における理解度・小テスト(50%)、筆記試験・レポートなど(50%)で総合的に評価する			
教科書	著者	タイトル	出版社	発行年
	必要に応じて配布または指定する			
参考文献	適宜紹介する			
事前・事後学修 留意事項	興味のある研究論文を選び、A4 レジューメ 2 枚程度にまとめて発表の準備を行う。研究論文はできるだけ最新のものを選択してください。			
研究室	各担当教員 研究室	オフィスアワー	各担当教員 オフィスアワー	

科目№	MSR03-1E		授業形態	講義	開講年次	1年次
授業科目名	生活行為リハビリテーション学特論		担当教員 E-Mail	代表：上島 健		
基本項目	科目区分			単位数		履修期間
	専門科目	リハビリテーション領域	選択必修	2単位	前期(30h)	
授業概要	<p>生活行為向上マネジメントは療法士の包括的な思考過程をわかりやすく表したもので、対象者の24時間365日をイメージしつつ、本人の望む生活行為に行動計画の焦点があたるように設計する。生活行為リハビリテーションの1つである生活行為向上マネジメントは障害をもった高齢者向けに開発されたツールであり、「人は作業を通して健康や幸福になる」を基本理念と学術的エビデンスに基づき、リハビリテーションの立場に立った生活行為の自立を目指した介入モデルを理解する。</p> <p>本講義では、作業療法だけでなく多職種における生活行為に対するリハビリテーション支援過程を理解し、その連携と協働の重要性と在り方を生活行為の観点から学ぶ。</p>					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域包括ケアシステムと生活行為リハビリテーションの関係を説明ができる</li> <li>2. 生活行為リハビリテーションの1つである生活行為向上マネジメントの説明ができる</li> <li>3. 様々な分野で支援している過程を理解し、そこで用いられている評価を説明することができる</li> <li>4. 多職種の連携と協働の重要性と在り方を通じて認知機能を重要視した支援の説明ができる</li> </ol>					
授業回数	テーマ	内容			担当教員	
1	生活行為リハビリテーション概論	ガイダンス、生活行為に関連する支援			上島 健	
2	生活行為向上マネジメント概論	生活行為と生活行為の障害、適応範囲、プロセス(メインシートとサブシート) 介入、課題の見直し、課題の申し送り)			武井 麻喜	
3	生活行為向上マネジメントの運用事例	実践上の課題、生活行為向上マネジメントの研修システム、今後の学術的發展に向けた展望			武井 麻喜	
4	地域包括ケアシステムについて	地域包括ケアシステムと生活行為向上に向けた支援について			嶋野 広一	
5	地域包括ケアシステムと生活行為向上マネジメントとの関連性	多職種の連携ツールとしての生活行為向上マネジメント			嶋野 広一	
6	心身機能の障害を抱えた対象者の生活行為機能と認知機能との関係1	脳波や自律神経活動を用いた作業活動と生活行為の解析について1			白岩 圭悟	
7	心身機能の障害を抱えた対象者の生活行為機能と認知機能との関係2	脳波や自律神経活動を用いた作業活動と生活行為の解析について2			白岩 圭悟	
8	心身機能の障害を抱えた対象者の生活行為機能と認知機能との関係3	自助具作製による生活行為向上に向けた支援について			水野 貴子	
9	心身機能の障害を抱えた対象者の生活行為機能と認知機能との関係4	高次脳機能障害の生活行為向上に向けた支援について			水野 貴子	
10	心身機能の障害を抱えた対象者に対する理学療法士の視点による支援過程1	生活行為向上と園芸作業に必要な身体機能の視点による分析			久利 彩子	

11	心身機能の障害を抱えた対象者に対する理学療法士の視点による支援過程 2	生活行為向上と園芸作業に必要な身体機能障害の視点による分析とその支援	久利 彩子
12	心身機能の障害を抱えた対象者に対する言語聴覚士の視点による支援過程 1	高次脳機能障害によりコミュニケーション障害を有する症例分析 5	塚本 能三
13	心身機能の障害を抱えた対象者に対する言語聴覚士の視点による支援過程 1	認知症によりコミュニケーション障害を有する症例分析 6	塚本 能三
14	地域包括ケアシステムと生活行為向上マネジメントとの関連性 1	加齢に伴う心身機能の低下、生活環境、生活行為との関連性について	上島 健
15	地域包括ケアシステムと生活行為向上マネジメントとの関連性 2・総括	福祉用具・支援機器を活用した生活行為向上支援について・総括	上島 健
成績評価方法	各授業科目における理解度・小テスト(50%)、筆記試験・レポートなど(50%)で総合的に評価する		
教科書	著者	教科書	著者
	教科書		
参考文献	特に指定しない。研究テーマに沿って教科書、参考書、文献を紹介する。		
事前・事後学修留意事項	これまでの臨床経験に基づいたことを復習しながら、主体的に目標を達成していく科目である。授業時間外の学修も含まれる。		
研究室	1号館 上島研究室	研究室	開講時に提示する

科目№	MSR04-1E		授業形態	演習	開講年次	1年次
授業科目名	生活行為リハビリテーション学演習		担当教員 E-Mail	代表：上島 健		
基本項目	科目区分			単位数		履修期間
	専門科目	リハビリテーション領域		選択必修	2単位	後期(30h)
授業概要	<p>生活行為リハビリテーション学特論の講義を踏まえ、様々な心身機能障害に対する支援事例の分析を行い、作業療法だけでなく多職種における生活行為の向上に焦点を当てたプログラム立案に至る過程を説明出来るための演習を実施する。演習中では、多職種との連携や協働、社会資源を活用による支援の必要性を踏まえ、リハビリテーションマネジメントを企画し、介入と効果検証のあり方を客観的な指標を用いた分析を行う演習を行う。</p>					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 臨床場面で経験した支援事例の報告ができる</li> <li>2. 生活行為向上マネジメントを用いた臨床支援事例の分析が説明できる</li> <li>3. 目標の生活行為に焦点をあてたプログラム立案の考え方が説明できる</li> <li>4. 多職種との連携や協働、社会資源を活用による支援の必要性が説明できる</li> <li>5. リハビリテーションマネジメントを企画し、その必要性について説明することができる</li> <li>6. 介入と効果検証のあり方を客観的な指標を用いて分析して説明することができる</li> </ol>					
授業回数	テーマ	内容			担当教員	
1	生活行為向上リハビリテーション事例の検討	ガイダンス・心身機能障害事例を通じた支援プロセスの分析			上島 健	
2	生活行為向上の客観的なエビデンスを用いた分析	実践された支援事例に対するグループ討議			上島 健	
3	生活行為向上マネジメントの評価・支援過程(面接・評価・目標立案)	発達障害領域における事例検討			武井 麻喜	
4	生活行為の工程を分析する方法と重要性	精神障害領域における事例検討			武井 麻喜	
5	地域包括ケアシステムにおける多職種協働	介護老人保健施設における多職種と連携した支援の検討			嶋野 広一	
6	多職種との連携と協働の支援	介護予防への関わりと継続的な支援の検討			嶋野 広一	
7	心身機能の障害を抱えた対象者の生活行為機能と認知機能の関係 1	脳波や自律神経活動を用いた作業活動と生活行為向上に向けた支援事例の検討 1			白岩 圭悟	
8	心身機能の障害を抱えた対象者の生活行為機能と認知機能の関係 2	脳波や自律神経活動を用いた作業活動と生活行為向上に向けた支援事例の検討 2			白岩 圭悟	
9	心身機能の障害を抱えた対象者の生活行為機能と認知機能の関係 3	自助具作製による生活行為向上に向けた事例検討			水野 貴子	
10	心身機能の障害を抱えた対象者の生活行為機能と認知機能の関係 4	高次脳機能障害の生活行為向上に向けた事例検討			水野 貴子	
11	心身機能の障害を抱えた対象者の生活行為機能と認知機能の関係 5	生活行為向上と園芸作業に必要な身体機能の視点による分析 ～グループ討議～			久利 彩子	

12	心身機能の障害を抱えた対象者の生活行為機能と認知機能の関係 6	生活行為向上と園芸作業に必要な身体機能障害の視点による分析とその支援 ～グループ討議～	久利 彩子
13	心身機能の障害を抱えた対象者の生活行為機能と認知機能の関係 4	高次脳機能障害者の動画から症状抽出、介入に関するグループ討議～5	塚本 能三
14	心身機能の障害を抱えた対象者の生活行為機能と認知機能の関係 5	認知症者の動画から症状抽出、介入に関するグループ討議～6	塚本 能三
15	総括	総括	上島 健
成績評価方法	各授業科目における理解度・小テスト(50%)、筆記試験・レポートなど(50%)で総合的に評価する		
教科書	著者	タイトル	出版社
	発行年		
参考文献	特に指定しない。研究テーマに沿って教科書、参考書、文献を紹介する。		
事前・事後学修留意事項	これまでの臨床経験に基づいたことを復習しながら、主体的に目標を達成していく科目である。授業時間外の学修も含まれる。		
研究室	1号館 上島研究室	オフィスアワー	開講時に提示する

科目№	MSR05-1E		授業形態	講義	開講年次	1年次
授業科目名	コミュニケーションリハビリテーション学特論		担当教員 E-Mail	宇都宮 洋才		
基本項目	科目区分			単位数		履修期間
	専門科目	コミュニケーション領域		選択必修	2単位	前期(30h)
授業概要	<p>本科目では、リハビリテーションのベースとなる最近20年間に発展してきた認知科学と言語及び非言語コミュニケーション科学について、精神医学的な基礎、生理学的な基礎、生化学的な基礎、神経心理学的な基礎、心理学的な基礎を学び、それぞれの観点から臨床・研究における視点を学ぶ。また、認知症をはじめとする様々な精神神経疾患の認知機能・言語症状・非言語コミュニケーション障害の特性や発現機序に関する従来の知見・仮説などを学修し、それぞれの障害に対するリハビリテーションの技術と理論について学ぶ。</p>					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高次脳の発達と認知機能の加齢変化について生理学的に説明ができる。</li> <li>2. 認知機能とコミュニケーション機能の分析法や検査法について説明できる。</li> <li>3. コミュニケーションの機能とそれを支える認知機能について心理学的評価法やリハビリテーションへの心理学的アプローチについて説明できる。</li> <li>4. 認知コミュニケーション機能障害の生化学的指標、生化学的検査の評価とリハビリテーションについて説明できる。</li> <li>5. 認知・コミュニケーション障害について言語聴覚学的分析と機能回復へのリハビリテーションについて説明できる。</li> </ol>					
授業回数	テーマ	内容			担当教員	
1	認知機能とコミュニケーション機能低下を予防するサプリメント1	講義オリエンテーションと、コミュニケーションの機能およびコミュニケーションを支える認知機能低下を予防する食品としてのサプリメントの効果について、特に梅などの自然食品について学修し、ディスカッションする。			宇都宮 洋才	
2	認知機能とコミュニケーション機能低下を予防するサプリメント2	コミュニケーションの機能およびコミュニケーションを支える認知機能低下を予防する食品として不飽和脂肪酸(EPA, DHA など)のサプリメントの効果について学修し、ディスカッションする。			宇都宮 洋才	
3	認知機能とコミュニケーション機能の基礎	認知機能とコミュニケーション機能の脳内回路について学修しディスカッションする。			武田 雅俊	
4	認知コミュニケーション機能障害の発症機序と病態、分類	認知機能とコミュニケーション機能の脳内回路について学修しディスカッションする。			武田 雅俊	
5	認知コミュニケーション機能障害への対応法、治療法	認知症患者の事例をもとに、診断や対応法と共に、適切なリハビリテーションの手法について学修しディスカッションする。			武田 雅俊	
6	認知コミュニケーション機能障害と脳イメージングによる評価	認知・コミュニケーション障害と脳イメージング研究の技法について学び、ディスカッションする。			塚本 能三	

7	認知コミュニケーション機能障害の言語聴覚学的分析と機能回復	認知機能の6つのドメインに関する認知機能障害からの機能回復におけるコミュニケーション過程を分析する手法について学び、ディスカッションする。	塚本 能三
8	認知コミュニケーション障害の臨床評価アプローチ	認知症・高次脳機能障害における認知コミュニケーション障害の病態理解と、神経心理学的評価法の要点を概説する。	芦塚 あおい
9	コミュニケーション支援とリハビリテーションの実践理論	認知機能諸領域とコミュニケーション行動の関連を基盤に、介入設計・環境調整・支援者教育を含む実践的アプローチを検討する。	芦塚 あおい
10	認知機能障害とコミュニケーション障害を呈する病態①脳血管障害	認知機能障害とコミュニケーション障害を呈する病態について、脳血管障害を中心に学ぶ。	上田 有紀人
11	認知機能障害とコミュニケーション障害を呈する病態②神経変性疾患	認知機能障害とコミュニケーション障害を呈する病態について神経変性疾患を中心に学ぶ。	上田 有紀人
12	発達障害におけるコミュニケーション障害の概要	発達障害におけるコミュニケーション障害の概要について文献を抄読し、ディスカッションする。	畑中 良太
13	発達障害におけるコミュニケーション障害のリハビリテーション	発達障害におけるコミュニケーション障害のリハビリテーションについて文献を抄読し、ディスカッションする。	畑中 良太
14	認知コミュニケーション機能障害と作業療法	認知コミュニケーション機能障害に対する作業療法士の介入について学びディスカッションする。	岸村 厚志
15	認知コミュニケーション機能障害と行動リハビリテーション	応用行動分析学を用いた行動リハビリテーションにおける認知症のコミュニケーション機能障害の介入について学びディスカッションする。	岸村 厚志
成績評価方法	各授業科目における理解度・小テスト(50%)、筆記試験・レポートなど(50%)で総合的に評価する		
教科書	著者	教科書	著者
	特に指定しない。研究テーマに沿って教科書、参考書、文献を紹介する。		
参考文献			
事前・事後学修留意事項	配布資料や抄読文献は予習して質問事項など整理し、毎回の復習に1時間以上かけること。		
研究室	研究科棟5階 宇都宮研究室	オフィスアワー	開講時に提示する

科目№	MSR06-1E		授業形態	演習	開講年次	1年次
授業科目名	コミュニケーションリハビリテーション学演習		担当教員 E-Mail	宇都宮 洋才		
基本項目	科目区分		単位数		履修期間	
	専門科目	コミュニケーション領域	選択必修	2単位	後期(30h)	
授業概要	<p>コミュニケーションリハビリテーション学特論の講義を踏まえ、症例検討と論文講読を通してさらに深く認知機能とコミュニケーションリハビリテーションについて学ぶことを目的とする。</p> <p>これまでの臨床に有用な科学的エビデンスについて、課題の設定、研究デザイン、研究方法、データ分析、結果の解釈を客観的に議論し、各自の研究につなげる。また、研究の視点をもって高度の臨床活動を行うと同時に、問題発見能力を育て、新たな理論や臨床技法を創出することにつなげる。</p>					
到達目標	<p>認知機能とコミュニケーション機能障害とそのリハビリテーションについて、以下を目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 臨床事例を客観的に議論し研究課題を整理できる。</li> <li>2. 文献から必要な情報を得て、学術的背景からディスカッションできる。</li> </ol>					
授業回数	テーマ	内容			担当教員	
1	認知機能とコミュニケーション機能低下を予防するサプリメント1	コミュニケーションの機能およびコミュニケーションを支える認知機能低下を予防する食品としてのサプリメントの効果について、特に梅などの自然食品についてディスカッションする。			宇都宮 洋才	
2	認知機能とコミュニケーション機能低下を予防するサプリメント2	コミュニケーションの機能およびコミュニケーションを支える認知機能低下を予防する食品として不飽和脂肪酸(EPA, DHA など)のサプリメントの効果についてディスカッションする。			宇都宮 洋才	
3	認知機能とコミュニケーション機能の脳内回路と機能障害(1)	認知機能とコミュニケーション機能の脳内回路についての最新文献を精読し、認知・コミュニケーション機能障害の症例研究とその病態発症機序について事例ごとに検討する。			武田 雅俊	
4	認知機能とコミュニケーション機能の脳内回路と機能障害(2)	認知機能とコミュニケーション機能の脳内回路についての最新文献を精読し、認知・コミュニケーション機能障害の症例研究とその病態発症機序について事例ごとに検討する。			武田 雅俊	
5	認知症患者の事例研究における診断や対応法	認知症患者の事例研究に力を入れ、診断や対応法と共に、適切なリハビリテーションの手法について検討する。			武田 雅俊	
6	認知機能障害とコミュニケーション障害における神経心理検査の重要性	認知機能障害やコミュニケーション障害を検出する各種神経心理検査の特徴とその重要性について学ぶ。			上田 有紀人	
7	要素的言語症候と病巣局在について	要素的言語症候と機能局在について理解し、単語情報処理モデルを用いて、情報処理過程と誤りの分析、訓練法について理解する。			上田 有紀人	

8	コミュニケーション障害の失語症の種類、およびそれぞれの特徴について	失語症の種類、症状、責任病巣、および発現機序について学ぶ。	塚本 能三
9	失語症以外の脳血管障害によりおこるコミュニケーション障害について	失語症以外のコミュニケーション障害について列挙し、それらの発現機序、リハビリテーションの可能性について学ぶ。	塚本 能三
10	ウェクスラー式知能検査による認知機能の測定法とその理論	WISC-Vおよび WAIS-IIIを構成する下位検査の理論を学び、検査結果から見える認知機能について検討する。	高橋 泰子
11	ウェクスラー式知能検査の解釈と臨床的支援	WISC-Vおよび WAIS-IIIの検査結果を用いて事例の認知機能を解釈する。また、訓練・支援のあり方を考察する。	高橋 泰子
12	発達障害におけるコミュニケーション障害と問題行動について	発達障害におけるコミュニケーション障害と問題行動について文献を精読し検討する。	畑中 良太
13	発達障害におけるコミュニケーション障害の育児ストレスについて	発達障害におけるコミュニケーション障害の育児ストレスについて文献を精読し検討する。	畑中 良太
14	認知コミュニケーション機能障害と作業療法	認知コミュニケーション機能障害に対する作業療法士の介入について文献を精読し検討する。	岸村 厚志
15	認知コミュニケーション機能障害と行動リハビリテーション	応用行動分析学を用いた行動リハビリテーションにおける認知症のコミュニケーション機能障害の介入について文献を精読し検討する。	岸村 厚志
成績評価方法	各授業科目における理解度・小テスト(50%)、筆記試験・レポートなど(50%)で総合的に評価する		
教科書	著者	教科書	著者
	特に指定しない。研究テーマに沿って教科書、参考書、文献を紹介する。		
参考文献			
事前・事後学修留意事項	配布資料や参考文献は予習して質問事項など整理し、毎回の復習に1時間以上かけること。		
研究室	研究科棟5階 宇都宮研究室	オフィスアワー	開講時に提示する

科目No.	MSR07-2R		授業形態	演習	開講年次	1-2 年次
授業科目名	リハビリテーション 特別研究		担当教員 E-Mail	指導教員		
基本項目	科目区分		単位数		履修期間	
	専門科目	リハビリテーション領域	必修	8 単位	通年 (120h)	
授業概要	リハビリテーション関連領域における研究課題の設定から修士論文の完成に至るまでの一連の研究過程を体系的に指導する。具体的には、研究テーマの明確化、文献検索および先行研究の批判的レビュー、研究デザインの構築、研究方法の選択、データ収集および統計解析、結果の解釈、学会発表および論文作成の方法について学修する。指導教員の助言のもとで主体的に研究を遂行し、科学的根拠に基づくリハビリテーション実践に貢献し得る研究能力の育成を目的とする。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ リハビリテーション関連領域における研究課題を自ら設定し、研究計画を立案できる。</li> <li>・ 適切な文献検索を行い、先行研究を批判的に検討・整理できる。</li> <li>・ 研究目的に応じた研究デザインおよび方法を選択し、倫理的配慮を含めた研究計画を構築できる。</li> <li>・ データの収集・管理・統計解析を適切に実施し、結果を科学的に解釈できる。</li> <li>・ 研究成果を学術的に発表し、修士論文として論理的にまとめることができる。</li> </ul>					
授業回数	テーマ	内容			担当教員	
1~3	研究課題の決定	最新の研究動向を文献などにより調査し、研究上の問題点などを洗い出す。			指導教員	
4~8	研究計画の立案	研究遂行のための研究方針を議論し決定する。			指導教員	
9~11	研究計画書の作成	問題を解決するための方法・方式を議論し決定する。			指導教員	
12	研究計画の発表および評価	研究計画発表会で発表を行い、教員から評価を受ける。			指導教員	
13~14	研究計画書の修正	計画発表会での指摘などを振り返り、計画書の再検討を行う。			指導教員	
15~16	研究倫理申請書の作成	研究倫理の基本的概念を理解して、倫理委員会への申請書類を作成、提出し審査を受ける。			指導教員	
17~21	予備研究等の実施	研究の実施可能性を検証するための予備的な研究を行う。			指導教員	
22~28	研究の実施 (前半)	問題を解決するための調査、実験を行う。			指導教員	
29~35	研究の中間まとめ	これまでのデータの整理をまとめる。			指導教員	
36	研究中間発表	研究中間発表会で発表を行う。			指導教員	
37~44	研究の実施 (後半)	中間発表会での意見を参考に、必要に応じて追加研究や追加解析などを行う。最終的なデータ収集を完了する。			指導教員	

45~48	研究結果のまとめ	研究結果を解析し、結果を解釈する。			指導教員
49~58	論文作成	修士論文執筆要項に従い、修士論文を作成する。			指導教員
59~60	論文の発表および評価	研究内容をスライドにまとめ、発表する。			指導教員
成績評価方法	修士論文 40%、修士論文発表 40%、研究態度 20%				
教科書	著者	タイトル	出版社	発行年	
参考文献					
事前・事後学修 留意事項	1 年次から関連領域を研究する指導教員に論文課題や研究の進め方等について指導を仰ぎ計画発表会、中間発表会、論文発表会を節目として進める。				
研究室	指導教員 研究室	オフィスアワー	開講時に提示する		

科目No.	MSH01-1R		授業形態	講義	開講年次	1年次
授業科目名	ヘルスプロモーション学特論		担当教員 E-Mail	中村 美砂		
基本項目	科目区分		単位数		履修期間	
	専門科目	ヘルスプロモーション領域	選択必修	2単位	前期(30h)	
授業概要	ヘルスプロモーションの理論・政策・実践を、学際的な視点から深く理解することを目的とする。医療系に限らず、教育、福祉、地域開発、行政、企業など多様な領域で活かせる健康づくりの知識・方法論・政策立案の基盤を養う。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康の概念や発育・発達、高齢期の疾患など、多面的な健康課題を理解し説明できる。</li> <li>食生活、喫煙・飲酒・薬物、睡眠、身体活動、感染症、精神の健康など、現代生活に関連する健康影響を把握できる。</li> <li>ヘルスリテラシー・エンパワメントの概念や関連法規を理解し、個人やコミュニティの健康支援に応用できる。</li> <li>講義で学んだ知識を整理・統合し、演習科目での実践・応用につなげる思考力を身につける。</li> </ul>					
授業回数	テーマ	内容			担当教員	
1	健康の概念	健康のとらえ方について学ぶ。			中村 美砂	
2	健康な発育・発達	健康な発育のための機能性食品			宇都宮 洋才	
3	高齢期の疾患	高齢期に多く見られる、筋・骨格系疾患や認知症について学ぶ。			中村 美砂	
4	健康と現代生活(1) 食生活と健康	食生活上の現代的課題と食品表示法について学ぶ。			河野 良平	
5	健康と現代生活(2) 喫煙・飲酒・薬物乱用と健康 影響	喫煙、飲酒、薬物乱用が健康に及ぼす影響について学ぶ。			河野 良平	
6	健康と現代生活(3) 睡眠と健康	良い睡眠と睡眠障害が健康に及ぼす影響について学ぶ。			河野 良平	
7	精神の健康(1) 心の健康	脳の構造と機能、ならびに精神活動の発達について学ぶ。			古井 透	
8	精神の健康(2) 欲求と適応異常	欲求不満や葛藤、適応障害について学ぶ。			古井 透	
9	精神の健康(3) ストレス	ストレスの歴史的背景と現代社会のストレスサーについて学ぶ。			古井 透	
10	健康と現代生活(4) 身体活動と健康	運動が身体に及ぼす影響について学ぶ。			今岡 真和	

11	健康と現代生活 (5) 感染症と健康	健康な生活のための感染症について	宇都宮 洋才	
12	健康と現代生活 (6) 妊娠と出産	妊娠と出産	宇都宮 洋才 宇都宮 智子	
13	ヘルスリテラシーとエンパワメント	個人やコミュニティが健康情報を理解・活用し、主体的に行動できる力の育成について学ぶ。	今岡 真和	
14	関係法規	健康増進法、介護保険法、地域保険法などを学ぶ。	今岡 真和	
15	総括	概論で学んだ基本概念や知識を整理し、演習科目での実践・応用につなげるための理解を深める。	中村 美砂	
成績評価方法	授業への参加状況 (20%)、レポート (80%) などで総合的に評価する。			
教科書	著者	タイトル	出版社	発行年
参考文献	和田雅史、齋藤理砂子	ヘルスプロモーション	聖学院大学出版会	2016年
事前・事後学修留意事項	特になし			
研究室	1号館5階 第10研究室	オフィスアワー	開講時に提示する	

担当教員：古井・今岡・宇都宮・河野・畑中

科目No.	MSH02-1R		授業形態	演習	開講年次	1年次
授業科目名	ヘルスプロモーション学 演習		担当教員 E-Mail	古井 透		
基本項目	科目区分		単位数		履修期間	
	専門科目	ヘルスプロモーション領域	選択必修	2単位	後期(30h)	
授業概要	<p>病気の原因を特定し除去できても安心ではない。再発は？続発する病気は？心配事はつきない。つまりは治療では遅すぎる。原因論で人間はハッピーにはなれない。誰もが固有の背景や状態像をかかえつつ、「わからなさ」を抱えつつ、生きぬく術を探している。求められているのは、よりよい人生へクリエイティブな力で生活をデザインすること、つまりヘルスプロモーションの実践力である。5人の講師はさまざまな領域や背景で豊富な健康実践に裏づけられた、いわばヘルスプロモーションのスペシャリストである。特論で学んだ内容を活かした実践的演習を経験していく。</p>					
到達目標	<p>ヘルスリテラシーとエンパワメントの視点から、コミュニティにおける健康支援の計画または実施ができるようになる。発育・発達、高齢期疾患など多面の健康課題に取り組むアイデアを生み、食生活、喫煙・飲酒・薬物、睡眠、身体活動、感染症、精神の健康など生活に関連するトピックにおいて健康への影響を計測したり、評価できるスキルを身につける。</p>					
授業回数	テーマ	内容			担当教員	
1	キネステティックと人の動き	モーショントラッキングによってインタラクティブにフィードバックコントロールを習得する。			古井 透	
2	健康増進	健康増進の国内外の取り組みを知る			今岡 和真	
3	介護予防	介護予防の変遷とフレイル概念の理解			今岡 和真	
4	産業保健	健康経営と人材資産の理解(2~4回のレポート)			今岡 和真	
5	学校保健	本邦での学校保健の概要			畑中 良太	
6	こどもの体力	近年の子どもの体力低下			畑中 良太	
7	ジュニア期スポーツ	ジュニア期のスポーツ障害(5~7回のレポート)			畑中 良太	
8	感染症から食品の研究へ	感染研究から食品機能性研究へ			宇都宮 洋才	
9	食品の機能性①	食品摂取による機能性について			宇都宮 洋才	
10	食品の機能性②	食品摂取による機能性について			宇都宮 洋才	
11	食生活と健康の評価方法	食生活や認知機能と健康に関する文献のうち、非侵襲的生体試料を用いたバイオマーカー評価を実施している研究を調査し、その測定原理を理解する。			河野 良平	
12	非侵襲的バイオマーカー評価	研究に活用できる非侵襲的バイオマーカー評価手法の基礎技術を習得する			河野 良平	
13	非侵襲的バイオマーカー解析	非侵襲的バイオマーカーデータの解析法と解釈について理解する(11~13回のレポート)			河野 良平	
14	ノルディックウォーキング	ウォーキングの3つのスタイルを体得する。			古井 透	
15	年長者へのコーチングをシュミレーションする	高齢者の心理傾向に配慮し、特異的な歩きを呈する対象に健康被害がでないような指導を考案する。			古井 透	

成績評価方法	各教員ごと 3 回目終わりに課された課題への取り組みを学期末に集計して評価する。			
教科書	著者	タイトル	出版社	発行年
参考文献				
事前・事後学修 留意事項				
研究室	1 号館 5 階 第 20 研究室	オフィスアワー		

科目№	MSH03-2R		授業形態	演習	開講年次	1-2 年次
授業科目名	ヘルスプロモーション 特別研究		担当教員 E-Mail	指導教員		
基本項目	科目区分			単位数		履修期間
	専門科目	ヘルスプロモーション領域	必修	8 単位	通年 (120h)	
授業概要	ヘルスプロモーション領域における研究課題の設定から修士論文の完成に至るまでの一連の研究過程について指導する。個人・地域・組織・社会環境に働きかける健康増進の視点を踏まえ、理論的枠組みの構築、文献レビュー、研究デザインの選択、データ収集および分析、研究成果の発信方法について体系的に学修する。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>ヘルスプロモーション領域における健康課題を明確化し、研究疑問を設定できる。</li> <li>先行研究を批判的に検討し、理論的背景および研究の位置づけを説明できる。</li> <li>適切な研究デザインおよび評価指標を選択し、倫理的配慮を含めた研究計画を立案できる。</li> <li>量的・質的手法を用いてデータを収集・分析し、結果を適切に解釈できる。</li> <li>研究成果を学術的に発表し、修士論文として論理的にまとめることができる。</li> </ul>					
授業回数	テーマ	内容			担当教員	
1~3	研究課題の決定	最新の研究動向を文献などにより調査し、研究上の問題点などを洗い出す。			指導教員	
4~8	研究計画の立案	研究遂行のための研究方針を議論し決定する。			指導教員	
9~11	研究計画書の作成	問題を解決するための方法・方式を議論し決定する。			指導教員	
12	研究計画の発表および評価	研究計画発表会で発表を行い、教員から評価を受ける。			指導教員	
13~14	研究計画書の修正	計画発表会での指摘などを振り返り、計画書の再検討を行う。			指導教員	
15~16	研究倫理申請書の作成	研究倫理の基本的概念を理解して、倫理委員会への申請書類を作成、提出し審査を受ける。			指導教員	
17~21	予備研究等の実施	研究の実施可能性を検証するための予備的な研究を行う。			指導教員	
22~28	研究の実施 (前半)	問題を解決するための調査、実験を行う。			指導教員	
29~35	研究の中間まとめ	これまでのデータの整理をまとめる。			指導教員	
36	研究中間発表	研究中間発表会で発表を行う。			指導教員	
37~44	研究の実施 (後半)	中間発表会での意見を参考に、必要に応じて追加研究や追加解析などを行う。最終的なデータ収集を完了する。			指導教員	
45~48	研究結果のまとめ	研究結果を解析し、結果を解釈する。			指導教員	
49~58	論文作成	修士論文執筆要項に従い、修士論文を作成する。			指導教員	
59~60	論文の発表および評価	研究内容をスライドにまとめ、発表する。			指導教員	

成績評価方法	修士論文 40%、修士論文発表 40%、研究態度 20%			
教科書	著者	タイトル	出版社	発行年
参考文献				
事前・事後学修 留意事項	1 年次から関連領域を研究する指導教員に論文課題や研究の進め方等について指導を仰ぎ計画発表会、中間発表会、論文発表会を節目として進める。			
研究室	指導教員 研究室	オフィスアワー	開講時に提示する	

科目No.	MCS02-1R	授業形態	演習	開講年次	2年次
授業科目名	医学英語特論	担当教員 E-Mail	野口 ジュディー		
基本項目	科目区分		単位数		履修期間
	共通科目		必修	2単位	前期 (30h)
授業概要	<p>本科目の目的は、認知リハビリテーション学分野における学術論文の読み書きのスキル、およびアカデミック・プレゼンテーション・スキルを学ぶことである。英語学術論文執筆においては、論文作成のルールを理解すること、具体的な執筆の手順を理解すること、そしてコーパスや機械翻訳などのオンラインツールを活用して実際に学術論文を作成することを試みる。アカデミック・プレゼンテーションに関しては、書き上げた学術論文内容を、どのように口頭発表、ポスター発表に繋げるか、その方法を学ぶ。本科目では、各回のテーマに沿っての講義と連動して、課題作成を進める。全15回で具体的かつ実践的な研究発信スキルを修得する。</p>				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ESP (English for Specific Purposes) の考え方を身に着ける</li> <li>2. 英語論文の文書パターンが理解できる</li> <li>3. コーパスやオンラインツールの活用ができる</li> <li>4. 英語論文を書くことができる</li> <li>5. 英語での口頭発表ができる</li> </ol>				
授業回数	テーマ	内容		担当教員	
1	英語論文作成の導入	ESP の考え方、英語論文の文書パターン、便利なツールなどを学び、発音実習をする。		野口 ジュディー	
2	英語論文執筆の基礎	OCHA 思考法、PAIL 分析、コーパス、ジャンル、ムーブ、スタイルを学び、実習する。		野口 ジュディー	
3	英語論文執筆の実践 (1)	投稿規定の読み込みなど、論文を書き始める前にすべきことについて実践を通じて学ぶ。		野口 ジュディー	
4	英語論文執筆の実践 (2)	タイトルの決め方、Abstract の書き方について実践を通じて学ぶ。Portfolio について学ぶ。		野口 ジュディー	
5	英語論文執筆の実践 (3)	Introduction を分析し、書き方について実践を通じて学ぶ。References の書き方を学ぶ。		野口 ジュディー	
6	英語論文執筆の実践 (4)	Materials and Methods と Results の書き方について実践を通じて学ぶ。		野口 ジュディー	
7	英語論文執筆の実践 (5)	Discussion と Acknowledgments を分析し、書き方について実践を通じて学ぶ。		野口 ジュディー	
8	英語論文執筆の実践 (6)	Cover letter の書き方、英語論文執筆のためのチェックリストの活用の仕方について実践を通じて学ぶ。		野口 ジュディー	
9	英語プレゼンテーション (口頭発表) の導入	プレゼンテーションの種類や効果的な発表の仕方について、書き言葉と話し言葉の違いなどを学ぶ。Recitation 課題と Recitation 評価表について理解する。		野口 ジュディー	

10	アカデミック・プレゼンテーションについて	各自 Recitation を実施し、評価表に記入する。自分の研究を3MTプレゼンテーションとして準備することを学ぶ。	野口 ジュディー	
11	アカデミック・プレゼンテーションの内容	3MT プレゼンテーションを実施し、評価を記入する。 アカデミック・プレゼンテーションの構成、挨拶と自己紹介、研究の背景と目的、研究の方法（実験の材料、実験装置の構造・動作、実験の概要）、研究の結果の表現方法について実践を通じて学ぶ。	野口 ジュディー	
12	アカデミック・プレゼンテーションの内容	プレゼンテーションのスライド、スクリプトの表現方法、最終発表の準備について実践を通じて学ぶ。	野口 ジュディー	
13	ポスター発表について	ポスター発表の目的、構成とレイアウトを学び、ポスターを作成し、スクリプトも作成する。	野口 ジュディー	
14	発表準備	役に立つ英語表現の効果的な活用を確認し、口頭発表・ポスター発表の準備を行う。	野口 ジュディー	
15	口頭発表・ポスター発表の本番	受講生各自口頭発表とポスター発表（質疑応答含む）を行う。評価表へ記入し、提出する。	野口 ジュディー	
成績評価方法	Tasks 40 %、Portofolio 30%、口頭発表 30 % として総合的に評価する。			
教科書	著者	タイトル	出版社	発行年
参考文献	野口ジュディー・深山晶子・村尾純子・浅野元子	理系英語のライティング Ver. 2	アルク	2020
	野口ジュディー・深山晶子・村尾純子・浅野元子	理系英語のプレゼンテーション Ver. 2	アルク	2020
事前・事後学修留意事項	基本的な英文法を理解し、自主的に英語による論文執筆およびアカデミック・プレゼンテーション（パワーポイントを使った口頭発表・ポスター発表）をしようとする意欲が求められる。			
研究室	e-mail にて連絡すること。	オフィスアワー	開講時に提示する	

科目№	MSS02-1E	授業形態	講義	開講年次	2年次
授業科目名	認知リハビリテーション学 研究方法論	担当教員 E-Mail	中村 美砂		
基本項目	科目区分		単位数		履修期間
	支持科目		選択	2単位	前期(30h)
授業概要	<p>認知リハビリテーション学研究の意義や目的を理解することを旨とし、研究の段階的なプロセス（研究課題の発見、研究デザインと研究方法の決定、データの分析、研究結果の解釈と考察）における基本事項をまず理解する。研究目的を達成するためには、その目的に合った適切な研究方法を用いることが大切である。「認知リハビリテーション学」は広範な領域を網羅しており、それゆえその研究方法も多様である。本科目では、生物学的、心理学的、社会学的、教育学的観点から、それぞれの研究手法について知識を深める。併せて、研究者として備えるべき倫理観を醸成し、遵守すべき規範を修得する。</p>				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究の過程について理解することができる</li> <li>2. 文献・情報の蒐集を行うことができる</li> <li>3. 問題解決に最適な研究方法について理解できる</li> <li>4. 研究内容の発表方法を理解できる</li> <li>5. 研究者としての倫理規範を遵守することができる</li> </ol>				
授業回数	テーマ	内容			担当教員
1	認知リハビリテーション学研究 方法論序論	研究の意義と概念について学ぶ。			中村 美砂
2	研究の理論的枠組みと仮説	科学的思考と研究過程について学ぶ。			中村 美砂
3	研究計画の立案、計画書作成	研究計画書の作成方法について学ぶ。			中村 美砂
4	研究の倫理規範	研究者としての態度、研究倫理を学ぶ。			中村 美砂
5	データの分析方法と図表の作成	データの解析方法と表示方法について学ぶ。			中村 美砂
6	ヒトを対象とした研究 (1)	認知機能検査について学ぶ。			中村 美砂
7	ヒトを対象とした研究 (2)	アンケート調査の方法について学ぶ。			中村 美砂
8	ヒトを対象とした研究 (3)	観察研究について学ぶ。			中村 美砂
9	ヒトを対象とした研究 (4)	介入研究について学ぶ。			中村 美砂
10	動物を対象とした研究	動物を対象とした研究の意義と実際について学ぶ。			中村 美砂
11	細胞系を用いた研究	細胞系を用いた研究の意義と実際について学ぶ。			中村 美砂

12	文献の活用方法	文献・資料の検索、蒐集、利用方法を学ぶ。	中村 美砂	
13	研究成果のまとめと論文文化	研究論文の書式、作成方法について学ぶ。	中村 美砂	
14	学会発表と論文投稿	学会発表と論文投稿の方法について学ぶ。	中村 美砂	
15	総括	以上のまとめと振り返りを行う。	中村 美砂	
成績評価方法	筆記試験(50%)・レポート(50%)で評価する。			
教科書	著者	タイトル	出版社	発行年
	各講義でオリジナル資料を配付する			
参考文献	神里彩子、武藤香織	医学・生命科学の研究倫理ハンドブック	東京大学出版会	2015
	出村 慎一 他	健康・スポーツ科学のための卒業論文/修士論文の書き方	杏林書院	2015
事前・事後学修 留意事項	特になし			
研究室	1号館 中村研究室	オフィスアワー	水曜日 12:00-13:00	

科目No	MSS03-1E	授業形態	講義	開講年次	2年次
授業科目名	リハビリテーション教育学特論	担当教員 E-Mail	古井 透・岡田 守弘・峰久 京子・塚本 能三・中村 俊介・村西 壽祥		
基本項目	科目区分		単位数		履修期間
	支持科目		選 択	2 単位	前 期 (30h)
授業概要	<p>養成校を卒業したばかりの新人へのオン・ザ・ジョブ・トレーニングやセラピストのキャリアアップについては医療機関における卒業研修、そして職能団体で取り組んでいる生涯教育制度の活用などに委ねられているが、卒前教育の臨床実習指導にあたるスーパーバイザーの多くは指導方法やメンターとしての課題を多く抱えている。今後は卒前・卒後を通じて一貫した技術水準の評価軸と到達目標などの体系的なビジョンが必要であり、今後はリハビリテーション教育体制の刷新が強く求められている。本科目では、医療教育上のテクニカルスキルの向上を目指す教育システムとは何かを学修し、医療現場におけるチーム医療の重要性と、職業的アイデンティティの再確認を促す必要性を理解し、さらに教育学と心理学との融合的概念をはじめとする学際的視点から現状を多角的に分析し、リハビリテーション教育の進化発展を模索するために必要な基礎知識を培う。また、卒前・卒後を通じて、医療職教育における一般性 (Generality) の重要性が高まっており、カリキュラムへの在り方を科学的根拠に基づいた思考から捉えるための視点をここで学修する。</p>				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. リハビリテーション教育学特論 (医療技術教育) の現状と課題、および、医療現場におけるチーム医療・多職種連携教育について理解できる</li> <li>2. 作業療法教育について理解できる</li> <li>3. 理学療法教育について理解できる</li> <li>4. 言語聴覚教育について理解できる</li> <li>5. 専門職教育とは、卒後教育システムとは、科学的根拠に基づいたリハビリテーション専門職の役割などについて理解できる</li> <li>6. 診療参加型実習について理解できる</li> </ol>				
授業回数	テーマ	内容			担当教員
1	序論：リハビリテーション教育学概論	リハビリテーション教育学 (医療技術教育) の現状と課題を解説から、科目の目指す内容を学修する。			古井 透
2	医療技術教育についての課題	卒前に実施される技術教育 (臨床ゼミ、プレ実習、OSCE、臨床実習など) について学修する。			古井 透
3	保健・医療・福祉専門領域における多職種連携教育 (IPE) について	医療現場のみならず保健・医療・福祉専門領域における多職種連携教育について学修する。			古井 透
4	作業療法教育における医療技術教育について①	技術水準の評価軸と到達目標 (診療参加型実習の評価・到達基準など) について最新の情報を学修する。			古井 透
5	作業療法教育における医療技術教育について②	卒前臨床教育での問題解決型学修 (PBL) とチーム基盤型学修の現状と問題点を学修する。			古井 透
6	卒前・卒後教育について	卒後教育について・屋根瓦式教育体制の導入について学修する。			岡田 守弘
7	理学療法教育における医療技術教育について①	技術水準の評価軸と到達目標についての最新の情報を学修する。			峰久 京子

8	理学療法教育における医療技術教育について②	臨床全教育での問題解決型学修(PBL)とチーム基盤型学修の現状と問題点を学修する。	峰久 京子	
9	言語聴覚教育における医療技術教育について①	技術水準の評価軸と到達目標についての最新の情報を学修する。	塚本 能三	
10	言語聴覚教育における医療技術教育について②	卒前臨床教育での問題解決型学修(PBL)とチーム基盤型学修の現状と問題点を学修する。	塚本 能三	
11	専門職教育について	インストラクショナル・デザイン(ADDIEモデル、ARCS 動機づけモデルなど)について学修する。	古井 透・ 中裕 俊介	
12	卒後教育システムについて	卒後教育システムへの要素について学修する。	古井 透・ 中裕 俊介	
13	リハビリテーション専門職について	科学的根拠を重視するリハビリテーション専門職の役割について学修する。	古井 透・ 中裕 俊介	
14	診療参加型実習について①	卒前・卒後にかけて一貫性のある教育手法である「診療参加型実習」について学修する。	村西 壽祥	
15	診療参加型実習について②	「診療参加型実習」の実践例も提示しながら教育効果について学修する。	村西 壽祥	
成績評価方法	課題レポート(50%)と課題について各担当教員の指示・提案に対する応答(50%)を総合的に評価する。			
教科書	著者	タイトル	出版社	発行年
参考文献	才藤 栄一監、金田 昌夫編ほか	PT・OTのための臨床技能とOSCE 機能障害・能力低下への介入編	金原出版	2017
	才藤 栄一監、金田 嘉清編ほか	PT・OTのための臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定編 第2版補訂版	金原出版	2020
	中川 法一編	セラピスト教育のためのクリニカル・クラークシップのすすめ 第3版	三輪書店	2019
	岩崎 テル子、小林 幸治編	作業療法のクリニカル・クラークシップガイド	三輪書店	2017
事前・事後学修 留意事項	各担当教員から配布された資料などを活用し、保健・医療・福祉に関わるリハビリテーション専門職の果たす役割を理解し、多職種連携実践(IPC)の要として協働する必要性を認識し行動すること			
研究室	1号館5階 第20研究室	オフィスアワー	開講時に提示する	

科目No.	MSS04-1E	授業形態	演習	開講年次	2年次
授業科目名	リハビリテーション教育学 演習	担当教員 E-Mail	古井 透		
基本項目	科目区分		単位数		履修期間
	支持科目		選択	2単位	前期(30h)
授業概要	<p>この不確かな時代において、リハビリテーションの目指すところは、その途中に様々な過程があっても、究極的にはインクルーシブで持続可能な世界を実現することであろう。実際には、リハビリテーション医療にかかわる医師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士などが、当事者を中心としたチームとして共通目的に向かっていくプロセスが展開されることになる。しかし、様々な立場の人々が問題意識を共有していく過程で、リハビリテーション教育学特論で学んだ教育的諸技法や学際的視点によって、問題構造を解明し深化させることが有用となる。</p> <p>本科目は、大学院生が持参する臨床現場の再認識から始める。リハビリテーション専門職の卒前・卒後の教育の一貫性を志向し、現場での多職種連携の深化へ向け、職種の違いを踏まえながら確かな裏付けを獲得していく過程を、多彩なバックグラウンドの講師陣のガイドで演習する。</p>				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 臨床現場で望ましい専門的スキルの到達目標について想起できる</li> <li>2. 臨床現場で求められるノンスキルテクニカルスキルについて説明できる</li> <li>3. リハビリテーション専門職の卒前・卒後のあるべき教育体系を描出できる</li> <li>4. 協働的関係の構築による多職種連携を模擬実施できる</li> <li>5. 臨床現場での療法士の当事者研究を志向できる</li> <li>6. 本学が果たすべき役割について自説を表出できる</li> </ol>				
授業回数	テーマ	内容		担当教員	
1	問題意識確認	アイスブレイクと各受講生の自己紹介により、個別の問題意識の背景を探索する。		古井 透	
2	臨床現場の現状把握	各人の活動環境における専門的スキル・ノンスキルテクニカルスキルの到達現状をインタラクティブに突き詰めていく。		古井 透	
3	臨床教育の体系	各人の領域におけるリハビリテーション専門職の卒前・卒後の教育体系がどうなれば一貫した体系となるのか議論を深める。		岡田 守弘	
4	医学教育の体系	医学教育における卒後トレーニングの各領域での実情を吟味する。		岡田 守弘	
5	事例研究方法論	困難事例におけるケース会議の設定の仕方、会議の持ち方についてのコーチングを学ぶ。		岡田 守弘	
6	連携と協働	多職種連携をロールプレイによって演習し、協働的関係の構築をシュミレーションする。		古井 透	
7	理学療法教育 UP TO DATE	理学療法における技術水準の新評価軸や到達目標への職能団体の取り組みを学ぶ。		峰久 京子	
8	作業療法教育 UP TO DATE	作業療法における技術水準の新評価軸や到達目標への職能団体の取り組みを学ぶ。		岸村 厚志	
9	言語聴覚教育 UP TO DATE	言語聴覚療法領域の技術水準の評価軸や到達目標への職能団体の取り組みを学ぶ。		塚本 能三	
10	臨床現場との乖離を考える	各人の活動環境における卒前教育レベル・卒後教育レベルの水準について、各専門職職能団体が目指している目標と比較して考察する。		古井 透・中松 俊介	

11	課題吟味	現状と目標の間を埋めるのに必要な要素を列挙し、優先順位を明確にして課題を吟味する。	古井 透・中松 俊介	
12	改善計画立案	課題解決へ向けた計画案を立案し、各受講生の環境における改善について発表するための資料を作成していく。	古井 透・中松 俊介	
13	改善計画発表	各受講生の環境における改善策を全員が発表する。質疑によりブラッシュアップする。	古井 透・中松 俊介	
14	当事者研究を知る（受講人数によっては、改善計画発表2）	療法士の当事者研究という視座から、各自の改善計画の意義や役割について吟味するが、受講人数によっては省く。	古井 透・中松 俊介	
15	資源開発と条件整備	各受講生の環境における改善策が継続的に実現可能にするための社会資源を検討し、本学が果たすべき役割を議論してまとめる。	古井 透・中松 俊介	
成績評価方法	成果物の発表内容(50%)および演習への取組内容(50%)によって総合的に評価する。			
教科書	著者	タイトル	出版社	発行年
	なし			
参考文献	鈴木 克明, 市川 尚, 根本 淳子	インストラクショナルデザインの道具箱 101	北大路書房	2016
	中村 文子, ボブ・パイク	研修デザインハンドブック	日本能率協会 マネジメントセンター	2018
事前・事後学修 留意事項	なし			
研究室	1号館 古井研究室	オフィスアワー	開講時に提示する	

科目No.	MSS09-1E	授業形態	講義	開講年次	2年次
授業科目名	運動機能解析学	担当教員 E-Mail	古井 透		
基本項目	科目区分		単位数		履修期間
	共通科目		選 択	2 単位	前 期 (30h)
授業概要	<p>歩行、書字、嚙下など、身体運動の回復はリハビリテーションにおける重要な課題である。身体運動の遂行には、筋力・柔軟性・バランス・持久力といった運動機能が不可欠であるが、その他、解剖学的構造、呼吸循環機能、神経機能など様々な要素が関与している。そのため、身体運動は、運動学、力学、生理学などの多様な手法により、多面的に解析されている。本科目は、運動機能に加え、広く、身体の姿勢・運動を解析する手法を紹介し、それらの原理やリハビリテーションにおける具体的な先行研究を学修することで、研究実践力を修得する。</p>				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. (古井) 運動機能を多面的に分析する手法が説明できる。</li> <li>2. (久利) 足圧中心 (COP ; center of pressure) を用いた解析の種類と解釈について説明できる。</li> <li>3. (古井) ISO 基準が車椅子だけでなく、それに乗っている人の姿勢表現に及ぶ事を説明できる。</li> <li>4. (今井) ジャンプマットセンサーを用いて運動機能との関連性、意義や方法を計測できる</li> <li>5. (佐伯) 超音波撮像装置を用いた骨格筋の形態・機械的特性の評価について、意義や方法を説明できる。</li> <li>6. (岡) 動作解析における3次元動作計測の概要と意義を説明できる。</li> <li>7. (岡) 歩行解析における床反力計測の概要と意義を説明できる。</li> <li>8. (村西) 加速度計を用いた姿勢・動作解析の計測方法と解釈を説明できる。</li> <li>9. (村西) 筋電図を用いた解析手法を説明でき、筋電図による種々の姿勢・動作解析を説明できる。</li> <li>10. (村上) 活動量計を用いた身体活動量の測定方法とその解釈について説明できる。</li> <li>11. (村上) スパイロメーターを用いた呼吸機能検査の方法とその解釈について説明できる。</li> <li>12. (久利) 超音波画像診断装置から得られるデータを用いた解析の種類と解釈について説明できる。</li> <li>13. (大籠) 脳の解剖学的構造と機能・機能分析のためのイメージング技術について説明できる。</li> <li>14. (今井) 感圧センサーを用いた評価方法と解釈を説明できる。</li> <li>15. (畑中) 発達障害の運動機能評価法の手法やデータの解釈について説明できる。</li> </ol>				
授業回数	テーマ	内容		担当教員	
1	総論	運動機能を解析する手法を概観する。		古井 透	
2	重心動揺計測による姿勢・動作解析学	COP を用いた解析について学ぶ。		久利 彩子	
3	2次元的表现による座位姿勢解析	ISO16840-1 車いす使用者の座位姿勢の国際基準について学び、それを応用した姿勢解析手法について学ぶ。		古井 透	
4	ジャンプマットセンサーを用いた運動機能の解析	ジャンプマットを用いて、運動機能を適切に評価し、その特徴や意義、方法について学ぶ。		今井 亮太	
5	超音波撮像装置を用いた骨格筋の形態・機械的特性の評価	超音波撮像装置を用いることで可能な骨格筋の形態・機械的特性の評価について、それぞれの意義や方法を学ぶ。		佐伯 純弥	
6	3次元動作解析による姿勢・動作解析学	3次元動作解析とその姿勢・運動解析への応用について、先行研究を通して学ぶ。		岡 健司	
7	床反力計測による姿勢・動作解析学	床反力計を用いた歩行計測・解析手法について、先行研究を通して学ぶ。		岡 健司	

8	加速度計測による姿勢・動作解析学	加速度計の計測方法および先行研究を通じた姿勢・運動解析を学ぶ。	村西 壽祥	
9	筋電図測定による運動解析学	筋電図を用いた計測方法および解析手法を学び、先行研究を通じた姿勢・運動解析を学ぶ	村西 壽祥	
10	活動量計による身体活動量の測定	ウェアラブル機器である活動量計を用いた身体活動量の測定の実際とデータの解釈方法について学ぶ。	村上 達典	
11	スパイロメーターによる呼吸機能の評価	スパイロメーターを用いた呼吸機能検査の実際とデータの解釈方法について学ぶ。	村上 達典	
12	超音波エコー検査による運動解析学	運動に伴う組織変動をリアルタイムに観察できる超音波画像診断装置を用いた解析について学ぶ。	久利 彩子	
13	脳機能計測 (fNIRS・PET 等)による脳機能解析学	大脳の機能分類の基礎を解説するとともに、神経科学論文を紹介して最新の脳機能計測方法について疾患を交えながら学修する。	大籠 友博	
14	感圧センサーを用いた運動解析	基礎から臨床まで様々な測定方法について従来から現在に至るまでの方法を、それぞれの解析手段の変遷を学修する。	今井 亮太	
15	発達障害の運動機能評価法	運動機能の特異的発達障害の運動機能評価を使用した先行研究を紹介し、運動機能の特異的発達障害の運動機能評価手法について学ぶ。	畑中 良太	
成績評価方法	各授業内容における理解度を小テスト・レポートなどによって講師別に評価し、それらの得点を積算し、総合的に評価する。			
教科書	著者	タイトル	出版社	発行年
	配布資料			
参考文献				
事前・事後学修留意事項	事前に理学療法に関する運動機能評価に関する文献を検索する。事後は自身の修士論文に関する研究方法に応用するためにより深く理解する。			
研究室	1号館5階 第20研究室	オフィスアワー	開講時に提示する	

科目No.	MSS10-1E	授業形態	講義	開講年次	2年次
授業科目名	生活行為解析学	担当教員 E-Mail	上島 健		
基本項目	科目区分		単位数		履修期間
	支持科目		選択	2単位	前期(30h)
授業概要	<p>人が生きていく上で営める生活全般の行為(生活行為)は、心身機能の障害によって日常生活活動、家事、仕事、趣味、遊び、対人交流、休養等に支障をきたす。生活行為を阻害している因子を科学的に分析し、作業療法が「人は作業を通して健康や幸福になる」という基本理念と学術的根拠に基づき、作業療法を通して認知予備力を高められるアイデアを創発し、その支援策を地域で検証する。本科目では、身体障害、精神障害、発達期障害、高齢期障害による阻害因子を国際生活機能分類(ICF)の概念に基づく相互作用から生活行為を分析する能力を学修する。</p>				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 作業療法の基本となる「作業」についての作業分析ができる</li> <li>2. 心身機能の障害による日常生活活動の課題を説明することができる</li> <li>3. 日常生活活動の課題と生活行為との因果関係を説明することができる</li> <li>4. 生活行為を阻害している因子について、客観的な指標を用いて説明することができる</li> <li>5. 作業療法を通して認知予備力を高められるアイデアを創発することができる</li> <li>6. 障害領域における主な生活行為の阻害因子と国際生活機能分類(ICF)と関連付けができる</li> </ol>				
授業回数	テーマ	内容		担当教員	
1	生活行為向上マネジメントのプロセス概要 1	生活行為を向上するためのリハビリテーション評価とアウトカムを学修する。		上島 健	
2	生活行為向上マネジメントのプロセス概要 2	作業療法の基本となる「作業」における作業分析を学修する。		上島 健	
3	生活行為分析のインテーク	本人や家族への聞き取りから、生活行為の目標設定を学修する。		武井 麻喜	
4	生活行為分析のアセスメント	基本情報の分析、ICF に基づく分析や予後予測、本人や家族との合意形成を学修する。		武井 麻喜	
5	解決すべき課題の抽出と設定 1	現状とそのギャップの把握を学修する。		武井 麻喜	
6	解決すべき課題の抽出と設定 2	課題の優先順位付けを学修する。		武井 麻喜	
7	解決すべき課題の抽出と設定 3	課題の根本原因の分析を学修する。		水野 貴子	
8	生活行為支援のプランニング 1	支援プログラムの立案を学修する。		水野 貴子	
9	生活行為支援のプランニング 2	本人・家族・支援者の役割を学修する。		水野 貴子	
10	生活行為支援の実際 1	支援プログラムの実行(身体障害領域)		水野 貴子	
11	生活行為支援の実際 2	支援プログラムの実行(高齢期領域)		上島 健	

12	生活行為支援の実際 3	支援プログラムの実行（精神・発達領域）	武井 麻喜
13	生活行為支援策のモニタリング	再評価、目標達成状況の確認	武井 麻喜
14	生活行為支援策の計画修正	未達成課題の要因分析、支援計画の修正、支援の引継ぎ・多職種への受け渡しを学修する。	武井 麻喜
15	総括	総括	上島 健
成績評価方法	各授業科目における理解度・小テスト(50%)、筆記試験・レポートなど(50%)で総合的に評価する		
教科書	著者	タイトル	出版社
	特に指定しない。研究テーマに沿って教科書、参考書、文献を紹介する。		
参考文献			
事前・事後学修 留意事項	これまでの臨床経験に基づいたことを復習しながら、主体的に目標を達成していく科目である。授業時間外の学修も含まれる。		
研究室	1号館 上島研究室	オフィスアワー	開講時に提示する

科目№	MSS11-1E	授業形態	講義	開講年次	2年次
授業科目名	コミュニケーション解析学	担当教員 E-Mail	塚本 能三		
基本項目	科目区分		単位数		履修期間
	支持科目		選 択	2 単位	前 期 (30h)
授業概要	<p>コミュニケーションはヒトが社会で生活していく上で必要不可欠なものである。コミュニケーションには言語的コミュニケーション、および非言語的コミュニケーションがある。いずれも、社会生活上重要なコミュニケーション手段である。一方、これらの能力の障害が脳損傷により生じる。ここでは、成人分野における健常者のコミュニケーション能力を解析し、さらに、脳損傷によって生じる、コミュニケーション障害を分類、具体的な障害について解説を加え、コミュニケーション障害の実態を把握することを本講義の主目的とし、さらにリハビリテーションの可能性について学ぶ。</p>				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 言語的コミュニケーション、非言語的コミュニケーションの役割について理解する。</li> <li>2. 脳血管障害によるコミュニケーション障害の病態について理解する。</li> <li>3. 対象となる聴覚障害者（児）のコミュニケーションの問題について、分析し、把握ができる。</li> <li>3. 言語コミュニケーションのデータ収集・分析方法を理解することができる。</li> <li>4. 運動障害性構音障害について、JIN 式発声発語・器官検査を参考にした評価・訓練プログラムの立案ができる。</li> </ol>				
授業回数	テーマ	内容			担当教員
1	関係発達論的視点からのコミュニケーション発達について	関係発達論とは何かを主に個体能力発達論との相違点を通じて理解する。			塚本 能三
2	質的研究の方法論としてのエピソード記述について	人と人の接面で生じるコミュニケーションを記述する方法としてエピソード記述法を理解する。			塚本 能三
3	原初的コミュニケーションについて	コミュニケーション発達の基盤となる乳幼児期の原初的コミュニケーションを理解する。			塚本 能三
4	語用論的視点からのコミュニケーション発達について	主に前言語期のコミュニケーション発達を語用論的視点から理解する。			塚本 能三
5	聴覚障害者（児）とコミュニケーション	聴覚障害者（児）のコミュニケーションについて、コミュニケーション方法の視点から検討する。			馬屋原 邦博
6	脳損傷によって生じる言語・コミュニケーション障害について	脳損傷によって生じる様々なコミュニケーション障害とその特徴について理解する。			上田 有紀人
7	要素的言語症候と病巣局在について	脳損傷によって生じる要素的言語症候と局在について理解する。			上田 有紀人
8	認知神経心理学的アプローチについて	単語情報処理モデルを用いて、情報処理過程と誤りの分析、訓練法について理解する。			上田 有紀人
9	言語コミュニケーションについて（会話分析1）	健常者の会話分析のデータ収集方法を理解する			芦塚 あおい
10	言語コミュニケーションについて（会話分析2）	健常者の会話分析のデータ分析方法を理解する			芦塚 あおい
11	言語障害のコミュニケーションの分析と解析 1	言語音レベルから会話レベルまでの言語コミュニケーション障害のデータ収集方法演習			芦塚 あおい

12	言語障害のコミュニケーションの分析と解析2	言語音レベルから会話レベルまでの言語コミュニケーション障害のデータ分析方法演習	芦塚 あおい	
13	コミュニケーションにおける音声言語の役割について	人間にとって自然な言語獲得とは何かを考え、後天的な言語障害について解説する。	芦塚 あおい	
14	JIN 式発声発語・器官検査の目的と使用方法について	新たに考案された運動障害性構音障害の検査について解説する。	芦塚 あおい	
15	症例検討（中心問題を評価した上で、最適な訓練を考察する）	事例を提示し、JIN 式発声発語検査を用いた評価・訓練について解説し検討する。	芦塚 あおい	
成績評価方法	各授業科目における理解度・小テスト(50%)、筆記試験・レポートなど(50%)で総合的に評価する			
教科書	著者	タイトル	出版社	発行年
	藤田郁代 監修	「失語症学」第3版	医学書院	2021
参考文献	藤田郁代	「言語聴覚障害学概論」第2版	医学書院	2022
事前・事後学修留意事項	各回の講義内容について教科書、参考文献その他を通じてあらかじめ概略を理解しておくこと。			
研究室	1号館 塚本研究室	オフィスアワー	開講時に提示する	

科目No.	MSM03-2R		授業形態	演習	開講年次	1-2 年次
授業科目名	運動機能科学特別研究		担当教員 E-Mail	指導教員		
基本項目	科目区分		単位数		履修期間	
	専門科目	運動機能科学領域	選択必修	8 単位	通年 (120h)	
授業概要	<p>リハビリテーション疫学・統計学特論、運動機能リハビリテーション学特論・演習その他認知機能と運動科学関連領域の授業で学んだ認知機能と運動機能科学についての知識を集大成するとともに疑問点を明確化し、一つの課題に取り組む。課題解決のためのスキルや用法について、担当教員の指導の下、自主的に学ぶ。さらに研究成果を研究会、学会などで発表するための表現法、プレゼンテーション法および論文の書き方を修得する。</p> <p>地域在住高齢者のフレイル・サルコペニア調査、地域高齢者の要支援・要介護リスク因子の検討、骨粗鬆症 1 次予防に向けたリエゾンサービスの構築、地域社会再生を取り上げ地域の人的リソースの活用方法に関する検討、軽度認知機能障害 (MCI) 改善プログラムの開発、ロコモティブシンドロームの関連要因についての横断調査について研究・論文作成を行う。</p>					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 認知機能と運動機能科学領域におけるリハビリテーションの発展に貢献できる研究課題を設定し、研究を企画・計画・実施し、研究成果を発表する能力を身につける。</li> <li>2. 修士論文の作成を通して、地域住民や実践者・教育者とのネットワークを構築し、研究遂行能力を修得すると共に、実践者や後輩を指導する技術を身につける。</li> <li>3. 認知科学と運動機能科学分野における高度医療専門職として、幅広い学識と倫理観を有し、予防リハビリテーションや地域リハビリテーションの発展に寄与し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たす能力を身につける。</li> <li>4. 修得した専門能力、研究能力を教育・研究に生かし、リハビリテーション医療学の発展に寄与することができ、リハビリテーション学・認知リハビリテーション学分野での実践の向上に貢献できる能力を身につける。</li> </ol>					
授業回数	テーマ	内容			担当教員	
1~3	研究課題の決定	認知・運動機能科学領域への興味・関心と文献調査などから当該分野の既知と未知を明らかにし、研究テーマの背景と意義を明確にした上で、研究課題を決定する。			指導教員	
4~8	研究計画の立案	研究課題の解決に必要な取り扱う変数の抽出と研究デザインを考え、研究計画を立案する。			指導教員	
9~11	研究計画書の作成	研究課題に沿った、研究対象、方法などを検討し、研究計画書を作成する。			指導教員	
12	研究計画の発表および評価	研究計画を発表し、評価を受ける。			指導教員	
13~14	研究計画書の修正	研究計画の発表で受けた評価に基づき、研究計画書を修正する。			指導教員	
15~16	研究倫理申請書の作成	研究対象、研究内容に沿った倫理申請書を作成する。			指導教員	
17~21	予備研究等の実施	研究の準備を行い、予備研究を行う。			指導教員	
22~28	研究の実施 (前半)	研究計画に基づき、研究を行う。			指導教員	

29～35	研究の中間まとめ	研究の中間まとめを行い、中間発表会に向けて資料作成を行う。	指導教員
36	研究中間発表	研究の中間まとめの公開発表を行う。	指導教員
37～44	研究の実施（後半）	研究中間発表の結果を踏まえ、研究をさらに発展させる。	指導教員
45～48	研究結果のまとめ	研究結果を科学的・客観的に考察し、まとめる。	指導教員
49～58	論文作成	研究結果のまとめに基づいて、追加実験などを行い、その結果を論文として完成させる。	指導教員
59～60	論文の発表および評価	修士論文の内容を公開発表会で発表し、最終試験として評価を受ける。	指導教員
成績評価方法	研究態度、研究発表会審査結果、論文審査結果により総合的に評価する。		
教科書	著者	タイトル	出版社
	特に指定しないが、研究課題に沿った参考書や文献を用いる。		
参考文献			
事前・事後学修留意事項	これまで学修してきたことを復習しながら、主体的に目標を達成していく科目であるため、多くは授業時間外学修が主体となる。		
研究室	各指導教員 研究室	オフィスアワー	開講時に提示する

科目No.	MSL03-2R		授業形態	演習	開講年次	1-2年次
授業科目名	生活行為科学特別研究		担当教員 E-Mail	指導教員		
基本項目	科目区分		単位数		履修期間	
	専門科目	生活行為科学領域	選択必修	8単位	通年(120h)	
授業概要	<p>生活行為分析学、生活行為リハビリテーション特論・演習その他生活行為科学関連領域の授業を受けて、これらに関して研究の実践、指導を行い、リハビリテーション科学・作業療法学の立場から研究・論文作成を行う。</p> <p>文献研究、調査研究、事例研究、介入研究等の手法を用いて、「地域における障害児・者、高齢者の生活行為の自立・自立支援促進」の課題の研究・論文作成を行う。</p>					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>生活行為科学領域におけるリハビリテーションの発展に貢献できる研究課題を設定し、研究を企画・計画・実施し、研究成果を発表する能力を身につける。</li> <li>修士論文の作成を通して、地域住民や実践者・教育者とのネットワークを構築し、研究遂行能力を修得すると共に、実践者や後輩を指導する技術を身につける。</li> <li>生活行為科学分野における高度医療専門職として、幅広い学識と倫理観を有し、予防リハビリテーションや地域リハビリテーションの発展に寄与し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たす能力を身につける。</li> <li>修得した専門能力、研究能力を教育・研究に生かし、リハビリテーション医療学の発展に寄与することができ、リハビリテーション学・認知リハビリテーション学分野での実践の向上に貢献できる能力を身につける。</li> </ol>					
授業回数	テーマ	内容			担当教員	
1～3	研究課題の決定	生活行為科学領域への興味・関心と文献調査などから当該分野の既知と未知を明らかにし、研究テーマの背景と意義を明確にした上で、研究課題を決定する。			指導教員	
4～8	研究計画の立案	研究課題の解決に必要な取り扱う変数の抽出と研究デザインを考え、研究計画を立案する。			指導教員	
9～11	研究計画書の作成	研究課題に沿った、研究対象、方法などを検討し、研究計画書を作成する。			指導教員	
12	研究計画の発表および評価	研究計画を発表し、評価を受ける。			指導教員	
13～14	研究計画書の修正	研究計画の発表で受けた評価に基づき、研究計画書を修正する。			指導教員	
15～16	研究倫理申請書の作成	研究対象、研究内容に沿った倫理申請書を作成する。			指導教員	
17～21	予備研究等の実施	研究の準備を行い、予備研究を行う。			指導教員	
22～28	研究の実施(前半)	研究計画に基づき、研究を行う。			指導教員	
29～35	研究の中間まとめ	研究の中間まとめを行い、中間発表会に向けて資料作成を行う。			指導教員	
36	研究中間発表	研究の中間まとめの公開発表を行う。			指導教員	

37～44	研究の実施（後半）	研究中間発表の結果を踏まえ、研究をさらに発展させる。	指導教員
45～48	研究結果のまとめ	研究結果を科学的・客観的に考察し、まとめる。	指導教員
49～58	論文作成	研究結果のまとめに基づいて、追加実験などを行い、その結果を論文として完成させる。	指導教員
59～60	論文の発表および評価	修士論文の内容を公開発表会で発表し、最終試験として評価を受ける。	指導教員
成績評価方法	研究態度、研究発表会審査結果、論文審査結果により総合的に評価する。		
教科書	著者	タイトル	出版社
	特に指定しないが、研究課題に沿った参考書や文献を用いる。		
参考文献			
事前・事後学修 留意事項	これまで学修してきたことを復習しながら、主体的に目標を達成していく科目であるため、多くは授業時間外学修が主体となる。		
研究室	指導教員 研究室	オフィスアワー	開講時に提示する

科目No.	MSC03-2R		授業形態	演習	開講年次	1-2 年次
授業科目名	コミュニケーション科学特別研究		担当教員 E-Mail	指導教員		
基本項目	科目区分			単位数		履修期間
	専門科目	コミュニケーション科学領域	選択必修	8 単位	通年 (120h)	
授業概要	<p>本研究科で履修した教育研究の知識と技術を基礎に、各大学院生の研究課題について各種研究方法に沿った分析や検証を加え、リハビリテーション科学・コミュニケーション学を基盤とした研究・論文指導を行う。身につけた知識と技能を統合し、様々な問題解決と新たな価値の創造に結び付く能力や姿勢を育成するために、丁寧な個別指導のもと、研究の実践、研究・論文指導を行う。各大学院生の経験と背景に応じて、高度な臨床実践者・研究者としての基本的能力を修得し、認知機能とコミュニケーション機能に関するそれぞれの課題を再度整理するとともに、各種の技術についても高度化を目指す。</p> <p>認知機能低下に起因するコミュニケーション機能解析のための脳機能画像解析、脳波解析・精神神経薬理学的解析。分子遺伝学的解析法を用いて、認知・コミュニケーション機能についての研究・論文作成を行なう。</p>					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 認知機能とコミュニケーション科学領域におけるリハビリテーションの発展に貢献できる研究課題を設定し、研究を企画・計画・実施し、研究成果を発表する能力を身につける。</li> <li>2. 修士論文の作成を通して、地域住民や実践者・教育者とのネットワークを構築し、研究遂行能力を修得すると共に、実践者や後輩を指導する技術を身につける。</li> <li>3. 認知機能とコミュニケーション科学における高度医療専門職として、幅広い学識と倫理観を有し、予防リハビリテーションや地域リハビリテーションの発展に寄与し、地域もしくは臨床の場でチームリーダーとしての役割を果たす能力を身につける。</li> <li>4. 修得した専門能力、研究能力を教育・研究に生かし、リハビリテーション医療学の発展に寄与することができ、リハビリテーション学・認知リハビリテーション学分野での実践の向上に貢献できる能力を身につける。</li> </ol>					
授業回数	テーマ	内容			担当教員	
1～3	研究課題の決定	認知機能とコミュニケーション科学領域への興味・関心と文献調査などから当該分野の既知と未知を明らかにし、研究テーマの背景と意義を明確にした上で、研究課題を決定する。			指導教員	
4～8	研究計画の立案	研究課題の解決に必要な取り扱う変数の抽出と研究デザインを考え、研究計画を立案する。			指導教員	
9～11	研究計画書の作成	研究課題に沿った、研究対象、方法などを検討し、研究計画書を作成する。			指導教員	
12	研究計画の発表および評価	研究計画を発表し、評価を受ける。			指導教員	
13～14	研究計画書の修正	研究計画の発表で受けた評価に基づき、研究計画書を修正する。			指導教員	
15～16	研究倫理申請書の作成	研究対象、研究内容に沿った倫理申請書を作成する。			指導教員	
17～21	予備研究等の実施	研究の準備を行い、予備研究を行う。			指導教員	

22～28	研究の実施（前半）	研究計画に基づき、研究を行う。	指導教員
29～35	研究の中間まとめ	研究の中間まとめを行い、中間発表会に向けて資料作成を行う。	指導教員
36	研究中間発表	研究の中間まとめの公開発表を行う。	指導教員
37～44	研究の実施（後半）	研究中間発表の結果を踏まえ、研究をさらに発展させる。	指導教員
45～48	研究結果のまとめ	研究結果を科学的・客観的に考察し、まとめる。	指導教員
49～58	論文作成	研究結果のまとめに基づいて、追加実験などを行い、その結果を論文として完成させる。	指導教員
59～60	論文の発表および評価	修士論文の内容を公開発表会で発表し、最終試験として評価を受ける。	指導教員
成績評価方法	研究態度、研究発表会審査結果、論文審査結果により総合的に評価する。		
教科書	著者	タイトル	出版社
	特に指定しないが、研究課題に沿った参考書や文献を用いる。		
参考文献			
事前・事後学修留意事項	これまで学修してきたことを復習しながら、主体的に目標を達成していく科目であるため、多くは授業時間外学修が主体となる。		
研究室	各指導教員 研究室	オフィスアワー	開講時に提示する